



ジャン=ミシェル・モルク 著

藤本優子 訳

偉大なる ヴァイオリニストたち

—クライスラーからクレメールへの系譜—

全50人の演奏CD-ROM付き

Fritz Kreisler Jan Kubelik Jacques
Thibaud Georges Enesco Bronislaw
Huberman Albert Sammons Efrem
Zimbalist Adolf Busch Mischa Elman
Joseph Szigeti Franz Von Vecsey
Georg Kulenkampff Joseph Fuchs
Toscha Seidel Vasa Prihoda Jascha
Heifetz Zino Francescatti
Nathan Milstein Erica Morini



yamaha music media corporation

偉大なるヴァイオリニストたち

フリッツ・クライスラー	(1875-1962)
ヤン・クーベリック	(1880-1940)
ジャック・ティボー	(1880-1953)
ジョルジュ・エネスコ	(1881-1955)
フロニスワフ・フーベルマン	(1882-1947)
アルバート・サモンズ	(1886-1957)
エフレム・ジンバリスト	(1889-1985)
アドルフ・ブッシュ	(1891-1952)
ミッシャ・エルマン	(1891-1967)
ヨーゼフ・シゲティ	(1892-1973)
フランツ・フォン・ヴェチェイ	(1893-1935)
ゲオルク・クーレンカンプ	(1898-1948)
ジョセフ・フックス	(1899-1997)
トーシャ・ザイデル	(1899-1962)
ヴァーシャ・ブシホダ	(1900-1960)
ヤツシヤ・ハイフェッツ	(1901-1987)
ジノ・フランチェスカッティ	(1902-1991)
ナタン・ミルシテイン	(1903-1992)
エリカ・モリーニ	(1904-1995)
アルフレード・カンボーリ	(1906-1991)
ジョコンダ・デ・ヴィート	(1907-1994)
ダヴィッド・オイストラフ	(1908-1974)
シモン・ゴールドベルク	(1909-1993)
ヴォルフガング・シュナイダーハン	(1915-2002)
ユーディ・メニューイン	(1916-1999)
オスカー・シュムスキー	(1917-2000)
ルッジェーロ・リッチ	(1918 —)
ヘンリク・シェリング	(1918-1988)
ジネット・ヌヴェー	(1919-1949)
アイザック・スターン	(1920-1991)
アルテュール・グリュミオー	(1921-1986)
イヴリー・ギトリス	(1922 —)
ヨーゼフ・ハシッド	(1923-1950)
イダ・ヘンデル	(1924 —)
レオニード・コーガン	(1924-1982)
ヨハンナ・マルツィ	(1924-1979)
ユリアン・シトコヴェツキー	(1925-1958)
フランコ・グツリ	(1926-2001)
アーロン・ロザンド	(1927 —)
ヨゼフ・スーク	(1929-2011)
イーゴリ・オイストラフ	(1931 —)
クリスティアン・フェラス	(1933-1982)
マイケル・レービン	(1936-1972)
サルヴァトーレ・アッカルド	(1941 —)
ウラディーミル・スピヴァコフ	(1944 —)
ウート・ウーギ	(1944 —)
イツァーク・パールマン	(1945 —)
オレグ・カガン	(1946-1990)
ヴィクトル・トレチャコフ	(1946 —)
ギドン・クレーメル	(1947 —)

著者

ジャン＝ミシェル・モルク

幼い頃からヴァイオリンに慣れ親しむ。外科医のかたわら、弦楽器の造詣を深め、音楽批評家として25年間、音楽誌『ディアパゾン』の執筆陣に加わり、同様にイギリスの『ザ・ストラド』誌にも寄稿。マルチメディア辞典『ヴァイオリン、人、作品(仮題)』の共著者。フランス・ミュージク(ラジオ局)で多くの番組を制作し、長年にわたって人気番組『レコード批評のための討論会(Tribune Des critiques de disques)』ともコラボレートを重ねている。

訳者

藤本優子

東京生まれ。桐朋女子高等学校音楽科卒業、パリ国立高等音楽院ピアノ科卒。翻訳家・通訳・ライターとして活動。主訳書に『パリのレストラン』『テロル』『昼が夜に負うもの』(早川書房刊)『マルタ・アルゲリッチ 子供と魔法』(音楽之友社刊)など。

偉大なるヴァイオリニストたち

ークライスラーからクレームルへの系譜― 全50人の演奏CD-ROM付き

2012年7月10日 初版発行

著者 ― ジャン＝ミシェル・モルク (Jean-Michel Molkhou)

訳者 ― 藤本優子

発行者 ― 谷口恵治

発行所 ― 株式会社ヤマハミュージックメディア

〒171-0033 東京都豊島区高田3-19-10

電話 03-6894-0250

インターネット・ホームページ <http://www.ymm.co.jp>

デザイン ― 遠藤賢一

DTP製作 ― 株式会社アルスノヴァ

編集 ― 白木沙恵

印刷・製本 ― シナノ印刷株式会社

本書収録の写真、音源について一部権利者が明らかでなく、連絡の取れないものがあります。

お心あたりの方は、下記までお知らせください。

原書発行元: LIBELLA

日本語版発行元: 株式会社ヤマハミュージックメディア

出版部「偉大なるヴァイオリニストたち」係 電話 03-6894-0250

出版物、録音物を権利者に無断で複製(コピー)することは著作権の侵害にあたり、著作権法により罰せられます。

また本書の内容を無断転用等することは一切これを禁じます。

本書の定価はカバーに表示してあります。

造本には十分注意しておりますが、万一落丁、乱丁等の不良品がございましたらお取り替えいたします。

ISBN978-4-636-88079-3 C0073

©Japanese edition by YAMAHA MUSIC MEDIA CORPORATION

©2011 by Libella, Paris Japanese translation rights arranged with LIBELLA through Japan UNI Agency, Inc, Tokyo

Printed in Japan

INDEX

序文……………4

フリッツ・クライスラー FRITZ KREISLER (1875-1962)……………18

クライスラー 美しきロスマリン No. 1

シューベルト ヴァイオリンソナタイ長調 Op. 162 「二重奏曲」第1楽章 No. 2

ヤン・クーベリック JAN KUBELIK (1880-1940)……………26

ヴィエニャフスキ 「モスクワの思い出」 Op. 6 No. 3

ジャック・ティボー JACQUES THIBAUD (1880-1953)……………32

フランク ヴァイオリンソナタイ長調 第1楽章 No. 4

サン＝サーンス 「アの洪水」 Op. 45 前奏曲 No. 5

ジヨルジュ・エネスコ GEORGES ENESCO (1881-1955)……………40

シヨーソン 詩曲 Op. 25 No. 6

ブロニスワフ・フーベルマン BRONISLAW HUBERMAN (1882-1947)……………48

エドワール・ラロ スペイン交響曲 Op. 21 第3楽章 No. 7

アルバート・サモンズ ALBERT SAMMONS (1886-1957)……………54

エルガー ヴァイオリン協奏曲 ハ短調 Op. 61 第3楽章 No. 8

エフレム・ジンバリスト EFREM ZIMBALIST (1889-1985)		60
ブラームス ヴァイオリンソナタ 第3番 二短調 Op. 108 第3楽章	● No. 9	
アドルフ・ブッシュ ADOLF BUSCH (1891-1952)		66
シューマン ヴァイオリンソナタ 第1番 イ短調 Op. 105 第2楽章	● No. 10	
ミツシャ・エルマン MISCHA ELMAN (1891-1967)		72
チャイコフスキー ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op. 35 第2楽章	● No. 11	
アクロン ヘブライの旋律 Op. 33 (アウアー編曲)	● No. 12	
ヨーゼフ・シゲティ JOSEPH SZIGETI (1892-1973)		80
プロコフィエフ ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 Op. 19 第1楽章	● No. 13	
ベルリオーズ 夢とカプリース Op. 8	● No. 14	
フランツ・フォン・ヴェチエイ FRANZ VON VECSEY (1893-1935)		88
ベートーヴェン ヴァイオリンソナタ 第3番 変ホ長調 Op. 12-3 第3楽章	● No. 15	
ゲオルク・クーレンカンフ GEORG KULENKAMPF (1898-1948)		94
シューマン ヴァイオリン協奏曲 二短調 第2楽章	● No. 16	
ジョセフ・フックス JOSEPH FUCHS (1899-1997)		100
ベートーヴェン ヴァイオリンソナタ 第5番 へ長調 Op. 24 「春」 第1楽章	● No. 17	

INDEX

トーシャ・ザイデル TOSCHA SEIDEL (1899-1962) ブラームス ハンガリー舞曲 第1番 ト短調 (ヨアヒム編曲)  No. 18 106	ヴァーシャ・プシホダ VASA PRIHODA (1900-1960) バガニーニ ヴァイオリンソナタ 第12番 ホ短調 Op. 3-6  No. 19 112	ヤツシャ・ハイフェッツ JASCHA HEIFETZ (1901-1987) トマソ・アントニオ・ヴィターリ シャコンヌ (レスピーギ編曲)  No. 20 118 コルンゴルト ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op. 35 第1楽章  No. 21 118	ジノ・フランチェスカッティ ZINO FRANCESCATI (1902-1991) バガニーニ ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 Op. 6 第1楽章  No. 22 130 ラヴェル ヴァイオリンソナタ ト長調 第2楽章  No. 23 130	ナタン・ミルシテイン NATHAN MILSTEIN (1903-1992) J・S・バッハ 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006 第1楽章  No. 24 136 ゴルトマルク ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 Op. 28 第1楽章  No. 25 136	エリカ・モリーニ ERICA MORINI (1904-1995) ヴィエニャフスキ カプリッチョ・ワルツ ホ長調 Op. 7  No. 26 146	アルフレード・カンポーリ ALFREDO CAMPOLI (1906-1991) アントニオ・バッジーニ 妖精の踊り Op. 25  No. 27 150
--	--	---	--	--	---	--

ジヨコンダ・デ・ヴィート GIOCONDA DE VITO (1907-1994) 156
 プラームス ヴァイオリンソナタ 第1番 ト長調 Op. 78 第1楽章 No. 28

ダヴィッド・オイストラフ DAVID OISTRAKH (1908-1974) 160
 ショスタコーヴィチ ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 Op. 77 (旧 99) 第1楽章 No. 29

サン＝サーンス 序奏とロンド・カプリチオーソ Op. 28 No. 30

シモン・ゴールドベルク SZYMON GOLDBERG (1909-1993) 170
 モーツァルト ヴァイオリンソナタ 第36番 変ホ長調 380 第3楽章 No. 31

ヴォルフガング・シュナイダーハン WOLFGANG SCHNEIDERHAN (1915-2002) 176
 ベートーヴェン ヴァイオリンソナタ 第7番 ハ短調 Op. 30 1 2 第3楽章 No. 32

ユーディ・メニューイン YEHUDI MENUHIN (1916-1999) 182
 ブロツホ アボダー No. 33

メンデルスゾーン ヴァイオリンソナタ へ長調 (一八三八年) 第2楽章 No. 34

オスカー・シュムスキー OSCAR SHUMSKY (1917-2000) 194
 ジョヴァンニ・バッティスタ・ヴィオッティ ヴァイオリン協奏曲 第22番 イ短調 第3楽章 No. 35

ルツジェーロ・リッチ RUGGIERO RICCI (1918-) 200

パガニーニ 24のカプリース Op. 1 13 変ロ長調 No. 36
 サラサーテ 序奏とタランテラ Op. 43 No. 37

INDEX

- ヘンリク・シエリング HENRYK SZERYNG (1918-1988) 206
 J・S・バッハ 無伴奏ヴァイオリンのためのバルティータ 第2番 二短調 BWV1004 「シャコンヌ」 No. 38
- ジネット・ヌヴェー GINETTE NEVEU (1919-1949) 214
 ラヴェル ツイガーマ No. 39
- アイザック・スターン ISAAC STERN (1920-1991) 218
 バンスタイン プラトンの饗宴によるセレナード 第1楽章 No. 40
 J・S・バッハ ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 BWV1041 第2楽章 No. 41
- アルテュール・グリユミオー ARTHUR GRUMIAUX (1921-1986) 226
 モーツァルト ヴァイオリンソナタ 第40番 変ロ長調 K.547 第1楽章 No. 42
 ブラームス ヴァイオリンソナタ 第2番 イ長調 Op. 100 第3楽章 No. 43
- イヴリー・ギトリス IVRY GITLIS (1922-) 232
 バルトーク ヴァイオリン協奏曲 第2番 第1楽章 No. 44
- ヨーゼフ・ハシッド JOSEF HASSID (1923-1950) 240
 サラサート スペイン舞曲集 Op. 23-2 「サバテアード」 No. 45
- イダ・ヘンデル IDA HANDEL (1924-) 246
 ベートーヴェン ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op. 61 第3楽章 No. 46

レオニード・コーガン	LEONID KOGAN (1924-1982)		252
ハチャトリアン	ヴァイオリン協奏曲ニ短調 第2楽章		
チャイコフスキー	ワルツ・スケルツォ	Op. 34	
		 No. 48	
ヨハンナ・マルツイ	JOHANNA MARTZY (1924-1979)		258
ドヴォルザーク	ヴァイオリン協奏曲イ短調	Op. 53 第1楽章	
		 No. 49	
ユリアン・シトコヴェツキー	JULIAN SITKOVETSKY (1925-1958)		264
シベリウス	ヴァイオリン協奏曲ニ短調	Op. 47 第1楽章	
		 No. 50	
フランコ・グツリ	FRANCO GULLI (1926-2001)		270
パガニーニ	ヴァイオリン協奏曲第5番イ短調	MS78 第2楽章	
		 No. 51	
アーロン・ロザンド	AARON ROSAND (1927-)		276
サン＝サーンス	ヴァイオリン協奏曲第3番	Op. 61 第2楽章	
		 No. 52	
ヨゼフ・スーク	JOSEF SUK (1929-2011)		280
スク	バラードニ短調	Op. 3b.	
		 No. 53	
イーゴリ・オイストラフ	IGOR OISTRAKH (1931-)		286
ヴィエニャフスキ	2つのヴァイオリンのためのエチュード・カプリース	Op. 18-2、5、4	
		 No. 54	

INDEX

クリステイアン・フェラス CHRISTIAN FERRAS (1933-1982)	292
ブラームス ヴァイオリン協奏曲ニ長調 Op. 77 第3楽章	No. 55
マイケル・レービン MICHAEL RABIN (1936-1972)	298
バガニーニ 24のカプリース Op. 1-1, 5, 24	No. 56
サルヴァトーレ・アッカルド SALVATORE ACCARDO (1941-)	304
バガニーニ ヴァイオリン協奏曲第2番 口短調 Op. 7 「ラ・カンパネラ」第3楽章	No. 57
ウラディーミル・スピヴァコフ VLADIMIR SPIYAKOV (1944-)	310
R・シュトラウス ヴァイオリンソナタ 変ホ長調 Op. 18 第2楽章	No. 58
ウート・ウーギ UTO UGHI (1944-)	316
J・S・バッハ 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとバリエータ 第1番ト短調 BWV1001 第2楽章	No. 59
イツァーク・パールマン ITZHAK PERLMAN (1945-)	320
メンデルスゾーン ヴァイオリン協奏曲 第2番 ホ短調 Op. 64 第3楽章	No. 60
プロコフィエフ ヴァイオリンソナタ 第1番 へ短調 Op. 80 第3楽章	No. 61
オレグ・カガン OLEG KAGAN (1946-1990)	328
シヨスタコーヴィチ ヴァイオリンソナタ Op. 134 第2楽章	No. 62

ヴィクトル・トレチャコフ VIKTOR TRETYAKOV (1946) 334

チャイコフスキー 懐かしい土地の思い出 Op. 42 第1楽章

 No. 63

ギドン・クレーメル GIDON KREMER (1947) 338

イザイ 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ 第3番 イ短調 Op. 27 「バラード」

 No. 64

モーツァルト ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 K. 216 第3楽章

 No. 65

番外編 クライスラー以前の巨匠、偉大なる教育者たち 346

 No. 1 は付属CD-ROMのトラックナンバーです。CD-ROMドライブ

で再生してください。CDプレイヤーでは再生できませんのでご注意ください。

・レコード音源をデータ化しており、アナログ特有のノイズがあります。予めご了承ください。

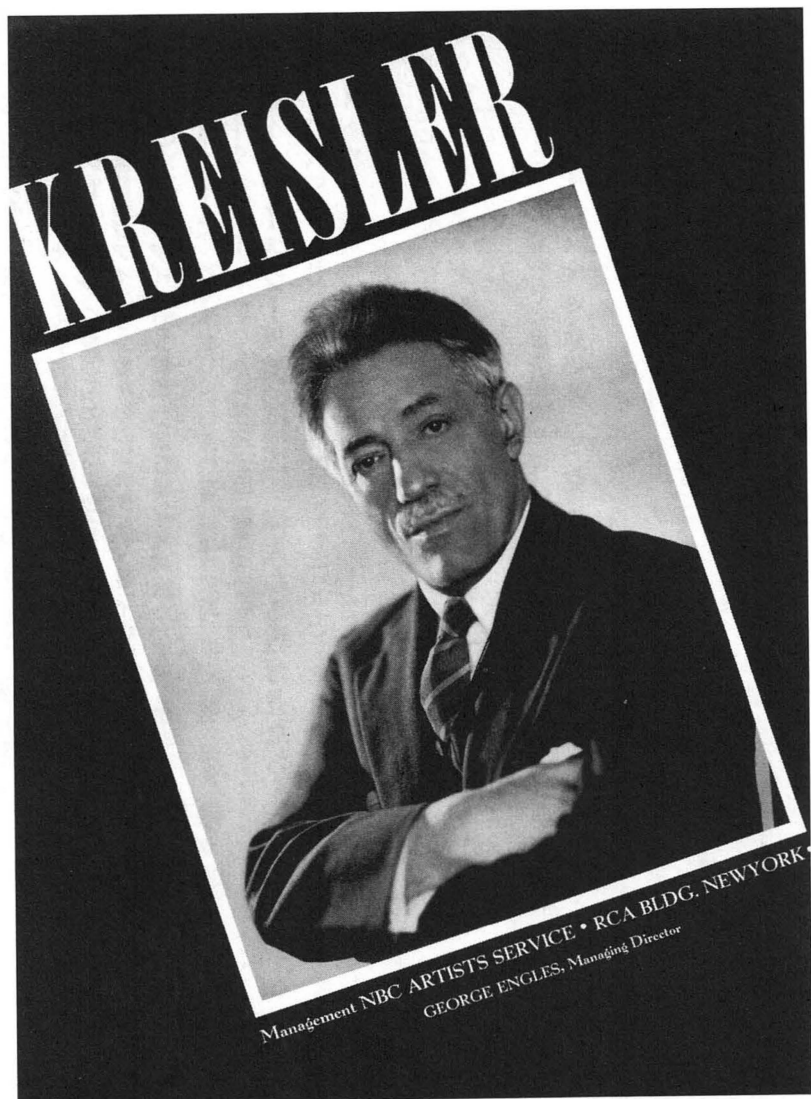


左から順に、ユーディ・メニューイン、アルテュール・グリュミオー、ダヴィッド・オイストラフが
それぞれのボーイングを比べているところ。エチエンヌ・ヴァトロの所蔵写真（1960年頃）

©2002, R.Kayaert/Droits SOFAM.

Fritz Kreisler

(1875-1962)



使用楽器

ガアルネリ・デル・ジェス (1733年)

現在はワシントン・ライブラリー・オブ・コンGRESSに保管されている。

ガアルネリ・デル・ジェス (1735年)

ガアルネリ・デル・ジェス (1740年)「タイガー」

その後ベンノ・ラビノフ所有となった。

J. B. ヴィヨーム (1845年)

クライスラーはヨーゼフ・ハシッドに貸し与え、現在はキム・ヨンウク所有。

ストラディヴァリ (1728年)「グルヴィル」

ストラディヴァリ (1733年)「クライスラー」

プロニスワフ・フーベルマンとヨハンナ・マルツィの手に渡った。

ストラディヴァリ (1711年)「アール・オブ・プリムス」

現在、ロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団が所有。

ストラディヴァリ (1727年)「ハート」

その後ジノ・フランチェスカッティが使用、次いでサルヴァトーレ・アッカルドが使った。

ストラディヴァリ (1732年)「バイヨ」

ピエール・バイヨとウジェーヌ・ソゼの所有となった。

ストラディヴァリ (1734年)「ロード・アマスト・オブ・ハックニー」

メイ・ハリソンとベンノ・ラビノフも演奏した。

ピエトロ・ガアルネリ (マントヴァ、1707年)

1967年にカール・アリス (ジュリアード弦楽四重奏団の第二ヴァイオリンだった) が購入した。

カルロ・ベルゴンツィ

のちにイツァーク・パールマン所有となった。

アレッサンドロ・ガリアーノ

ジョヴァンニ・グランチーノ

グラン・エ・ベルナデル

ダニエル・パーカー（1720年）



著作

『塹壕での四週間～あるヴァイオリニストが見た戦争』

(Houghton Mifflin Company / 1915年/ボストン、ニューヨーク)



CD-ROM

[No.1] クライスラー：美しきロスマリン

フランツ・ルツプ(ピアノ) / 1938年2月15日録音 / Gramophone
DA1627 / EMI CDH 7 64701 2. に再収録 / (1'58)

混じりけなしのウィーンの魅力を、ヴィルトウオーソであり作曲もするという芸術家としての伝統を受け継ぐ最後の一人の演奏で楽しめる。つねに柔軟な弓使い、そして優美なヴィブラートで自然に支えられている音ときたら、天国からまっすぐに聞こえてくるようだ。

[No.2] シューベルト：ヴァイオリンソナタ イ長調 Op.162「二重奏曲」

第1楽章

セルゲイ・ラフマニノフ(ピアノ) / 1928年12月20日録音 / ビクター
8216/8. / Biddulph LAB 001-3. に再収録 / (6'16)

セルゲイ・ラフマニノフとの伝説的なデュオによって残された録音の一つ。

Jan Kubelik

(1880-1940)





使用楽器

ストラディヴァリ (1687年)「ブロック」

ストラディヴァリ (1713年)「サンシー」

現在はイヴリー・ギトリスが所有。

ストラディヴァリ (1715年)「アラード」

テルフィン・アラードの所有楽器でもあった。

ストラディヴァリ (1715年)「エンペラー」

しばらく塩川悠子が使っていた。

GB グァダニーニ (1750年)

グアルネリ・デル・ジェス (1735年)「タウンリー」

フランツ・フォン・ヴェチエイ、マイケル・レービンの手にわたり、チョン・キョンファの手元へと移った。



CD-ROM

[No.3] ヴィエニャフスキ：「モスクワの思い出」Op.6

ピアノ伴奏付／1934年録音／ELEC R 431／再収録 Pearl BVA I／
(3'36)

きわめて個性的な解釈。19世紀の伝統に則って奔放かつ創意に満ちた演奏となっている。

Jacques Thibaud

(1880-1953)

The Illustrious French Violinist

Jacques

THIBAUD

TRIUMPHS

WITH SYMPHONY ORCHESTRAS

NEW YORK PHILHARMONIC-SYMPHONY

"The show was Mr. Thibaud's, the grand technician and stylist, the artist to his finger tips, and the musician who knew how to breathe a human voice into a violin."

NEW YORK WORLD-TELEGRAM

PHILADELPHIA ORCHESTRA

"An authentic and sensitive Mozart style such as one rarely hears."

PHILADELPHIA EVENING BULLETIN

CHICAGO SYMPHONY ORCHESTRA

"Thibaud captures audience—his is a patrician and a penetrating art—universal in its comprehension . . . something never to forget."

CHICAGO TRIBUNE

SAN FRANCISCO SYMPHONY ORCHESTRA

"One may go a lifetime without hearing a Mozart performance as exquisite as Thibaud's."

SAN FRANCISCO CHRONICLE

LOS ANGELES PHILHARMONIC ORCHESTRA

"Thibaud's reappearance a signal for a tremendous ovation . . . indeed a triumphant event."

LOS ANGELES TIMES

DETROIT SYMPHONY ORCHESTRA

"Both audience and orchestra rose in salute . . . For Thibaud had just provided everybody in the hall with a final lesson in how Mozart should be performed on the violin."

DETROIT NEWS



IN RECITAL — CARNEGIE HALL, N. Y.

★ "A rare experience for everyone."

NEW YORK TIMES

★ "A great artist who speaks on his instrument with the wisdom of a philosopher and the freedom of a true liberal."

NEW YORK POST

★ "The occasion was particularly memorable."

NEW YORK HERALD-TRIBUNE

★ "One of the great musicians of our time."

NEW YORK WORLD-TELEGRAM

1949-50 NOW BOOKING

NCAC NATIONAL CONCERT AND ARTISTS CORPORATION • 711 FIFTH AVE., NEW YORK 22, N. Y.

Marks Levine *Baldwin Piano* O. O. Bottorff



使用楽器

ストラディヴァリ (1709年)「バイヨ」

ピエール・バイヨとウジェーヌ・ソゼの所有楽器だった。飛行機事故で失われた。

ストラディヴァリ (1714年)「ペルー」

のちにダヴィッド・オイストラフ、次いでヴァレリー・オイストラフの使用楽器となった。

ストラディヴァリ (1716年)「コロツサス」

ジョヴァンニ・バッティスタ・ヴィオッティとピエール・バイヨの所有楽器だった。現在はルイージ・アルベルト・ピアンキの使用楽器。

カルロ・ベルゴンツィ

ウジェーヌ・イザイの所有楽器だった。

フランソワ＝ルイ・ピック

ウジェーヌ・イザイの所有楽器だった。現在はジャン＝ピエール・ヴァレーズの使用楽器。

ジャン＝バティスト・ヴィヨーム (1730年)「モンタニャーナ」

現在はシュエ・ウェイの所有となっている。



CD-ROM

[No.4] フランク：ヴァイオリンソナタ イ長調 第1楽章

アルフレッド・コルトー (ピアノ) / 1929年5月28日録音／グラモフォン DB1347/50 / 再収録EMI TOCE7311-20 / (6'27)

鋭敏な感覚の響き、哀切、柔軟な流れによってつくりだされる陰影。極上の魅力と個性にあふれ、演奏者の洗練と人生への愛が透けて見える。

[No.4] サン＝サーンス：「ノアの洪水」Op.45 前奏曲

ジョルジュ・ド・ロスネ (ピアノ) / 1929年5月29日録音／グラモフォン DB 13338 / 再収録EMI TOCE 7311-20 / (3'27)

この《前奏曲》によって初めてティボーはパリの聴衆の注目を引いた。

Georges Enesco

(1881-1955)

Present Exclusively for Season 1938-1939

E N E S C O

World Famous Composer • Conductor • Violinist



Steinway Piano
Columbia Records

Red Seal Records
with Yekudi Menahin

Final Appearance this Season as Soloist on Ford Sunday Evening Hour, APRIL 10th

Returning to America Jan. 1, 1939



使用楽器

グアルネリ・デル・ジェス (1736年)

ストラディヴァリ



CD-ROM

[No.6] ショーソン：詩曲 Op.25

ザンフォルト・シュリュッセル (ピアノ) / 1929年録音 / コロンビア

50273/74 D / 再収録 Musica Memoria 30322 / (15'41)

知的なエモーションと官能が融合し、エネスコならではの生命力を感じさせるフレージングとなっている。音楽を通じてのコミュニケーションにもっとも心を砕いていることがうかがわれる。

Bronislaw Huberman

(1882-1947)



 使用楽器**ストラディヴァリ (1712年)「シュライバー」**

ヘンリク・ヴィエニャフスキの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1713年)「ギブソン」

1936年に盗まれ、1987年に見つかった。その後ノーバート・ブレイン (アマデウス弦楽四重奏団の第一ヴァイオリンだった) の所有となったが、2001年からジョシュア・ベルの手元にある。

ストラディヴァリ (1733年)「クライスラー」

フリッツ・クライスラーの所有楽器だったが、ヨハンナ・マルツィイの手にわたった。

グアルネリ・デル・ジェス (1734年)「ギブソン」

その後はルツジェーロ・リッチの手を経て、現在は五嶋みどりの演奏楽器となっている。

 著作

『ヴィルトウオーソのアトリエ』(1912年)

『ヨーロッパでの我が道程』(1925年)

 CD-ROM**[No.7] エドゥアール・ラロ：スペイン交響曲 Op.21 第3楽章**

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 ジョージ・セル指揮 / 1934年
6月20日 - 22日 / コロンビア 68288/90-D / 再収録 The Classical
Collector FDC 2003 / (6'07)

物憂げにたつぷりと歌わせるヴァイオリン。常軌を逸したイマジネーションを映し出す音楽で、人によっては心惹かれると同じくらい面食らうであろう精神性と感傷を色濃くまとっている。

Albert Sammons

(1886-1957)



トラファルガー広場の戦車の上のアルバート・サモンズ (1916年頃)

© Brian Seed / Lebrecht Music & Arts.



使用楽器

G. B. グアダニーニ

ランドルフィ

ゴフリラー

ガアルネリ・デルジェス

ストラディヴァリ (1704年)「サモンズ」

ストラディヴァリ (1721年)

W. W. コベット所蔵



CD-ROM

[No.8] エルガー：ヴァイオリン協奏曲 ハ短調 Op.61 第3楽章

ニュー・クイーンズ・ホール管弦楽団 (ヘンリー・ウッド指揮) / 1929

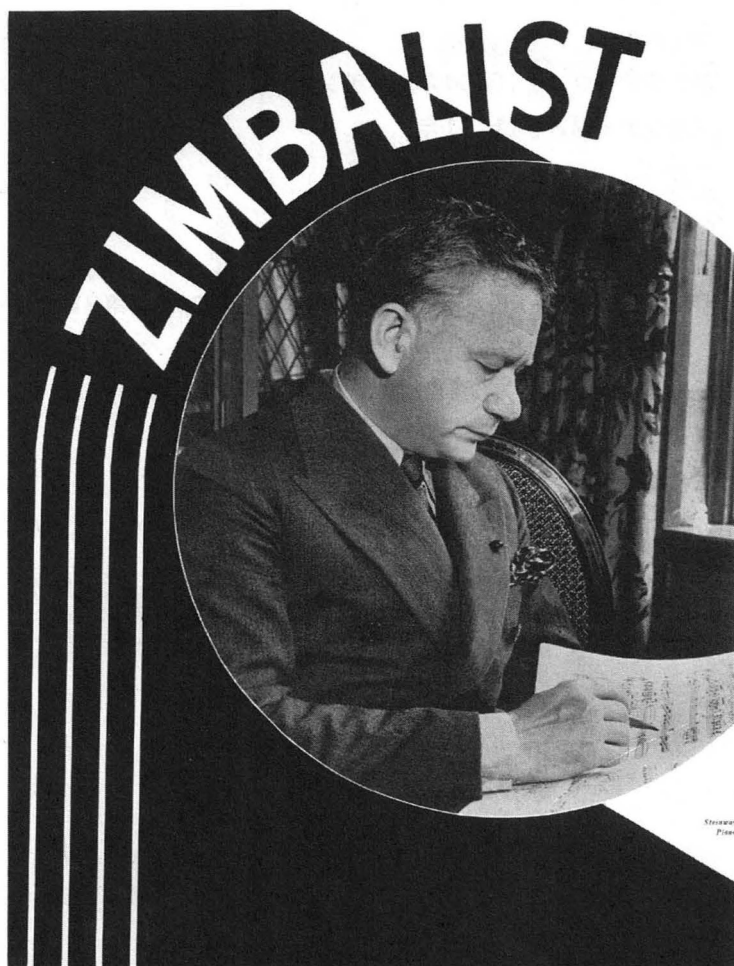
年3月18日録音 / コロンビア L 2346/51 / 再収録ナクソス 8.110951

/ (9'27)

この曲でサモンズはイギリス音楽におけるチャンピオンとなり、コンサートで弾いた回数は百回以上にのぼる。詩情の見本。文句のつけようがない様式感だ。

Efrem Zimbalist

(1889-1985)



Stowaway
Press

 MARKS (LYNN) Director Conductor NATIONAL CONCERT and ARTISTS CORPORATION
711 FIFTH AVENUE NEW YORK 22, N. Y. ALFRED H. MORTON, President

February 10, 1965

page 185

使用楽器

ロレンツォ・グァダニーニ (1743年)

G. B. グァダニーニ (1775年)

のちにルイス・カウフマンの所有楽器となった。

ストラディヴァリ (1715年)「ティティアン」

のちにアルテュール・グリユミオーの所有楽器となった。

ストラディヴァリ (1727年)

ストラディヴァリ (1735年)

CD-ROM

[No.9] ブラームス：ヴァイオリンソナタ 第3番 二短調 Op.108 第3楽章

ハリー・カウフマン (ピアノ) / 1930年録音 / コロンビア 67786/8

／再収録 Doremi DHR 7739 / (3'07)

Adolf Busch

(1891-1952)



ADOLF BUSCH

WORLD FAMOUS VIOLINIST

"Mr. Busch's purity of line, his broad sense of architecture and his unerring projection of the chordal structure earned for him the warm approval of his listeners."—*New York Herald Tribune*, January 4, 1940

"The violinist reached great heights and was rewarded by a veritable ovation."—*Boston Post*, November 25, 1939

"Such was his deep understanding and so great was the passion with which he communicated his vision that many a listener ceased to hear mere violin tones, sensing only the immense architectural design of Bach."

Boston Transcript, November 25, 1939

"A purity and opulence which, combined with the superior musicianship always his, worked wonders."

New York Times, December 17, 1939

MR. BUSCH APPEARS IN SOLO RECITAL, IN JOINT RECITAL WITH
RUDOLF SERKIN AND WITH HIS OWN BUSCH QUARTET

Management

•

NBC ARTISTS SERVICE

•

RCA Bldg., New York

•

George Engles, Director



使用楽器

ストラディヴァリ (1716年)「シュトゥッキ」

ストラディヴァリ (1732年)「ヴィーナー」

のちにピーナ・カルミレッリの所有楽器となった。



CD-ROM

[No.10] シューマン：ヴァイオリンソナタ 第1番 イ短調 Op.105 第2楽章

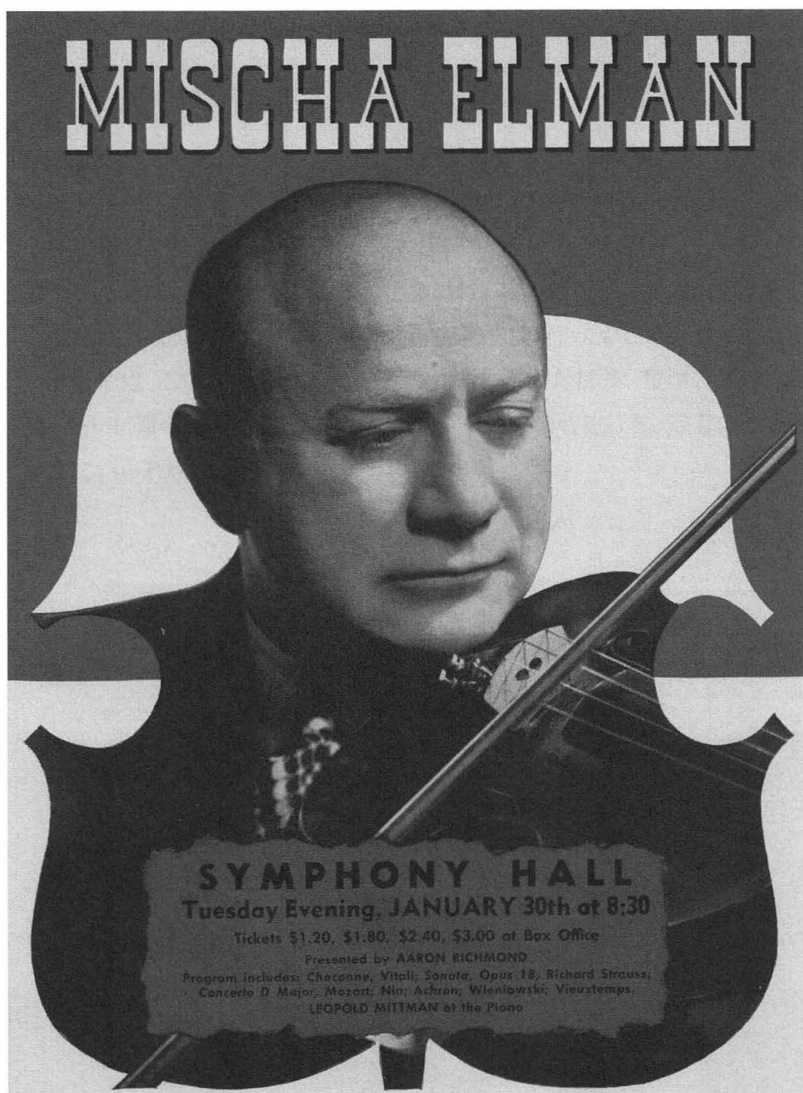
ルドルフ・ゼルキン (ピアノ) / 1937年10月9日録音 / HMV

DB3371/72 / 再収録 EMI CDS7 54374 2 / (3'48)

ブッシュとゼルキンの1920年の出会いは、結婚にたとえてもいいかもしれない。二人のデュオは彼らの生前、すでに伝説だった。このシューマンのソナタでは、二人の音楽的な対話と心が通じあった様子、音楽の意図の継続、互いに耳を傾けあう細心の心意気が、聴く者の心を打ち、敬意の念を抱かずにいられない。

Mischa Elman

(1891-1967)



MISCHA ELMAN

SYMPHONY HALL
Tuesday Evening, JANUARY 30th at 8:30

Tickets \$1.20, \$1.80, \$2.40, \$3.00 at Box Office

Presented by AARON RICHMOND

Program includes: Chaconne, Vltplj; Sonata, Opus 18, Richard Strauss;
Concerto D Major, Mozart; Nio; Achron; Wieniowski; Vieuxtemps.
LEOPOLD MITTMAN at the Piano



使用楽器

ストラディヴァリ (1703年)「シューフス」

ストラディヴァリ (1721年)

のちにヨゼフ・スークの所有楽器となった。

ストラディヴァリ (1722年)「ブルームフィールド」

ヴィリー・ブルメスターとヨーゼフ・ヨアヒムの使用楽器だった。

ストラディヴァリ (1727年)「マダム・レカミエ」

ストラディヴァリ (1735年)「サマズイユ」

のちにレジス・パスキエとウート・ウーギの所有楽器となった。

ニコロ・アマティ



CD-ROM

[No.11] チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.35 第2楽章

ロンドン交響楽団 (ジョン・バルビローリ指揮) / 1929年12月19日

ー20日 / HMV 1405/8 / 再収録 Pearl Gemm CD9388 / (6'40)

現在、ミツシャ・エルマンのヴァイオリンを聴くと、十月革命以前のペトログラード (サンクト・ペテルブルク) の写真を眺めるような感慨を抱かずにはいられない。豪奢、煌びやか、涙の滴。いまや永遠に失われた文化そのものだ。チャイコフスキー《ヴァイオリン協奏曲》の音色には思わず涙を誘われる。この曲こそエルマンが長らく「自分の曲」と見なしていた作品だ。

[No.12] アクロン：ヘブライの旋律 Op.33 (アウアー編曲)

ジョゼフ・サイガー (ピアノ) / 1956年三月録音 / ロンドン LL

1467 / 再収録テストメント SBT4 1344 / (6'01)

イディッシュの民族音楽をエルマンはことさらに愛した。エルマンならではの自在なテンポ、激しい熱情、自然なインスピレーションは、圧倒的に豊潤な響きとなって結実し、中央ヨーロッパで幾世紀も受け継がれてきたユダヤの伝統をあらためて見せつける。



Mischa Elman

AT the peak of his career, the world-renowned violinist is today more tops than ever. Pouring in from all parts of the country, audiences and critics join in unanimous agreement: "NEVER MORE MIRACULOUS AND GREAT."

From the time of his American debut in 1908, at the age of 17, when he swept the country end to end with the glory of his violin genius (he gave 21 concerts in New York alone, a record which has remained solitary and unique), to the countless world tours, which have made his name a household word in every corner of the world, Mischa Elman has never been anything but tops.

The way in which Mischa Elman is tops today, however, is singularly special. It is a tops which has broadened and deepened and grown and matured with the years. The old glorious "Elman tone" is revelation to new audiences and a constant delight to the old; as is the brilliant technic and vigor and dynamic flight, now combined with a new spiritual strength, insight, all-round virtuosity and scope which has left the country breathless with new wonder.

A favorite on the top radio programs of the day, the "Elman tone" is a constant source of pleasure to millions of new music listeners. Here he is shown playing with the orchestra of the RCA Program, "Music America Loves Best."



With Dr. Serge Koussevitzky and composer Bohuslav Martinu, following the virtuoso's sensational success in the latter's Violin Concerto with the Boston Symphony.



On tour, Mr. Elman has played at Army Camps and Naval Stations all over the country—appearances with GI orchestras being a special pleasure and privilege.



At home, there is nothing for relaxation like Mrs. Elman and afternoon tea.

- "WITHOUT A RIVAL TODAY"—OLIN DOWNES, N. Y. Times, Jan. 7, 1944
- "ELMAN A MASTER"—N. Y. World-Telegram, Jan. 7, 1944
- "MISCHA ELMAN WINS OVATION"—Christian Science Monitor, Jan. 3, 1944
- "POTENT IS THE ELOQUENCE OF MISCHA ELMAN'S VIOLIN"—Chicago News, Jan. 14, 1944
- "ELMAN WINS ACCLAIM"—Chicago Tribune, Jan. 12, 1944

EXCLUSIVE MANAGEMENT
BERNARD R. la Berge INC.
 119 WEST 57th STREET, NEW YORK 19, N. Y.
 VICTOR RECORDS STEINWAY PIANO

Joseph Szigeti

(1892-1973)

Szigeti

PEERLESS IN RECITAL AS WITH ORCHESTRA

"Peerless Szigeti"

St. Louis Star-Times

"He stands without a peer."

Cleveland Plain Dealer

"That Top of Top Flight Violinists."

New York World Telegram



TIME

"Big Box Office Such as
Mellow Fritz Kreisler,
Brilliant Jascha Heifetz.

MUSICIANLY JOSEPH SZIGETI."

Newsweek

"A Szigeti Concert
Invariably Attracts a
Full House."

ORCHESTRAL ENGAGEMENTS SEASON 1941-1942

New York Philharmonic-
Symphony

Boston Symphony Orchestra

Minneapolis Symphony

Ford Sunday Evening Hour

New York City Symphony

St. Louis Symphony Orchestra

Washington With National
Symphony Orchestra

New Haven Symphony

Baltimore With National
Symphony Orchestra

Cincinnati Symphony

Elizabeth Philharmonic

Seattle Symphony

Montreal Symphony

Toronto Philharmonic

Buffalo Philharmonic

New York, New Friends of Music
Orchestra

Newark—Griffith Foundation (with N. Y. New Friends of
Music Orchestra)

Management: National Concert and Artists Corp. • Alfred H. Morton, President • Marks Levine, Director Concert Division
Columbia Records 711 Fifth Avenue, New York Baldwin Piano



使用楽器

マントヴァのピエトロ・グアルネリ

グアルネリ・デル・ジェス

ストラディヴァリ (1724年)「ルートヴィヒ」

G. B. グアダニーニ



著作

『弦によせて』(1947年)

『ヴァイオリニストのノートブック』(1964年)

『ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ』(1965年)

『シゲティ・オン・ザ・ヴァイオリン』(1970年)



CD-ROM

[No.13] プロコフィエフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 Op.19

第1楽章

ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団 (トーマス・ビーチャム指揮)
／ 1935年8月23日録音／ HMV LX 433-35 ／ 再収録 EMI CDH
53452 2 ／ (9'17)

プロコフィエフはシゲティを自作品の最良の理解者と見なしていた。ここで聴くことができる演奏こそ、1935年にシゲティが世界初で録音した《ヴァイオリン協奏曲二長調》であり、胸をえぐるような歌心と熱のこもった雄々しさは、強い感情を喚起する力に満ちている。

[No.14] ベルリオーズ：夢とカプリース Op.8

フィルハーモニー管弦楽団 (コンスタント・ランバート指揮) ／
1946年8月26日録音／コロンビア 72869 D ／ 再収録 Lys DANTE
084 ／ (9'08)

シゲティが蘇演したおかげでヴァイオリンのレパートリーに復活した楽曲である。

Franz Von Vecsey

(1893-1935)





使用楽器

グアルネリ・デル・ジェス (1735年)「タウンリー」

ヴェチェイがヤン・クーベリックから購入し、のちにマイケル・レーピン、さらにキョンファ・チョンの所有楽器となった。

ストラディヴァリ (1716年)「ベルティエル」または「フォン・ヴェチェイ」

のちにフランコ・グツリの所有楽器となった。



CD-ROM

[No.15] ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ 第3番 変ホ長調

Op.12-3 第3楽章

グイド・アゴ스티 (ピアノ) / 1935年録音 / ポリドール 10318/20
/ 再収録 Pearl Gemm 9898 / (4'00)

すでにステージからは離れていた才能が最後の輝きを放っている。

Georg Kulenkampff

(1898-1948)





使用楽器

ストラディヴァリ (1734年)「ナドー」

エドゥアール・ナドーとヴィリー・ブルメスターの所有楽器だった。



著作

『ヴァイオリン演奏についての考察』(1952年)



CD-ROM

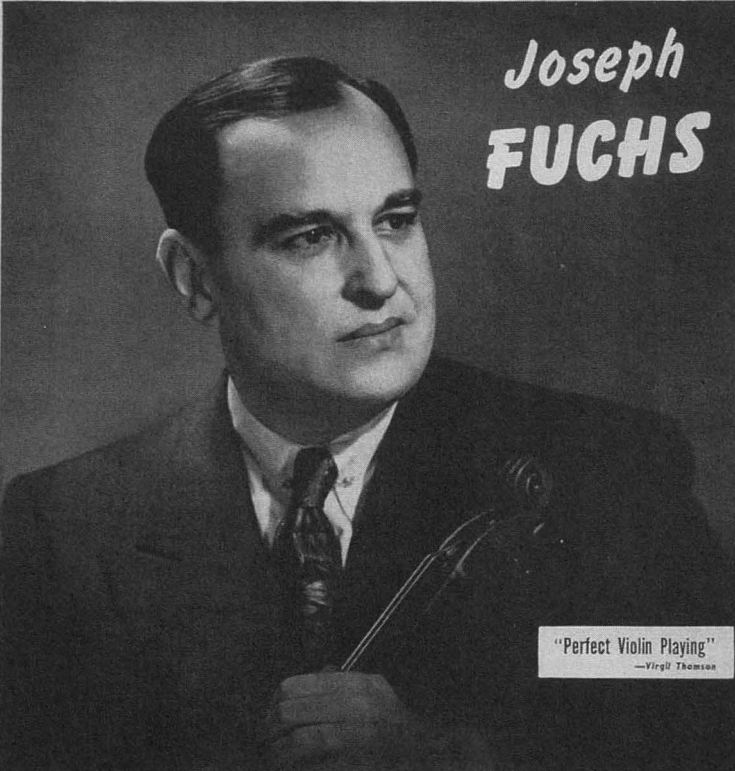
[No.16] シューマン：ヴァイオリン協奏曲 二短調 第2楽章

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 (ハンス・シュミット＝イツセルシュテット指揮) / 1937年12月20日録音 / テレフンケン E 2395/8 / 再収録テルデック 4509-93672-2 / (6'24)

再発見された《ヴァイオリン協奏曲》の初演からわずか数週間後にレコーディング。

Joseph Fuchs

(1899-1997)



Joseph FUCHS

"Perfect Violin Playing"
—Virgil Thomson

NEW YORK RECITAL, NOV. 5, 1947

"A musician of stature."—TIMES • "A violinist of high and remarkably consistent talents."—HERALD-TRIBUNE
"Pre-eminent among American violinists."—SUN • "Top-flight violinist."—JOURNAL AMERICAN

SOLOIST WITH ORCHESTRA DURING CURRENT TOUR

- "George Szell brought us Joseph Fuchs to dazzle us in the Mendelssohn Concerto . . . The violinist was recalled again and again to the stage for his brilliant and searching performance . . . A tone that was the essence of golden purity. As always, he revealed perfection of technique." *Elmore Bacon, Cleveland News*
- "He made the violin sound like a full orchestra and the tones were as clear and sharp as a Saturday Evening Post cover." *Austin (Tex.) American*
- "Gave the large audience a thrill such as has not been experienced here in some time, with his brilliant and individualized interpretation of the Tchaikovsky Concerto . . . so magnificently performed that it called forth bravos from the orchestra." *Denver Post*
- "Making superb use of his impeccable technique, penetrating musicianship with rare feeling for musical and artistic values, Mr. Fuchs well earned the ovation which greeted his performance of the Tchaikovsky Concerto." *Vancouver (B.C.) Daily Province*

Victor Red Seal Records MGT.: JUDSON, O'NEILL & JUDD INC.
Division of Columbia Artists Management Inc.
113 W. 57th Street, New York 19, N. Y. M. G. M. Records



使用楽器

ストラディヴァリ (1722年)「カティス」

カミッロ・シヴォリの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1710年)「マガジナー」

ヴィオッティの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1728年)「バレット」



CD-ROM

[No.17] ベートーヴェン: ヴァイオリンソナタ 第5番 ヘ長調 Op.24「春」

第1楽章

アーサー・バルサム (ピアノ) / 1952年6月半ばに録音 / デッカ
DL9642 / 再収録ナクソス 8.111252 / (8'59)

LPレコードの時代に初めてリリースされた全曲集。生き生きとして深みのある対話 (やりとり) からは、しっかりとした学識の裏打ちによって伝統と現代性が絶妙に混じりあっていることがうかがわれる。時代を経ても色褪せることなく、フックスの清廉と鋭い知性の力を感じさせる。

Toscha Seidel

(1899-1962)





使用楽器

ストラディヴァリ (1712年)「ダヴィンチ」



CD-ROM

[No.18] ブラームス：ハンガリー舞曲 第1番 ト短調 (ヨアヒム編曲)

ユージン・クスミアク (ピアノ) / 1938年12月11日録音 / RCAピクチャー 4458 / Biddulph LAB 013 / (3'22)

天才的なテンペラメントが生み出す響き。心を揺り動かされる。

Vasa Prihoda

(1900-1960)



ホテルの部屋でミュートヴァイオリンを使って練習しているヴァーシャ・プシホダ



使用楽器

ストラディヴァリ (1710年)「カンポセリーチェ」

それ以前は「アンリ・ヴェータン」の名で呼ばれていた。現在はチェコ政府の所有で、ヨゼフ・スークの使用楽器。



CD-ROM

[No.19] パガニーニ：ヴァイオリンソナタ 第12番 ホ短調 Op.3-6

シャルル・セルネ (ピアノ) / 1926年録音 / ポリドール 66483 / 再収録 Biddulph LAB 135 / (3'43)

伝説のヴィルトゥオーソ奏者による独創性と巧みさが堪能できる。このレパートリーが聴衆におよぼす電撃的な作用を心得た演奏。厳密な楽理やテンポには縛られず、おのれのボヘミアンな本能だけに耳を傾け、魅惑と華やかさをきわだたせるために楽器を最大限に使っている。

Jascha Heifetz

(1901-1987)





使用楽器

カルロ・トノーニ (1736年)

トノーニは18世紀イタリアの製作者。この楽器でハイフェッツは1917年のアメリカデビューの演奏をおこない、亡くなるまで手元に置き、弟子であり助手であったシェリー・クロスに遺した。

ストラディヴァリ (1731年)「ピエル」

ストラディヴァリ (1714年)「ドルフィン」

1951年に売られた。

ストラディヴァリ (1715年)「ホッホスタイン」

ヨーゼフ・ヨアヒムとフリッツ・クライスラーの所有楽器だった。

ガルネリ・テル・ジェス (1742年)「ex-ダヴィッド」

ハイフェッツは1922年に購入。そのキャリアの大部分においてこの楽器を弾いた。フェルディナンド・ダヴィッドとアウグスト・ウィルヘルミの所有楽器だった。ファンの一人がこのガルネリのゴージャスな響きを称賛したところ、ハイフェッツは耳をヴァイオリンに近づけて「何も聞こえないが?」と答えた。ハイフェッツの遺言により、サンフランシスコ美術館に寄贈された。



CD-ROM

[No.20] トマソ・アントニオ・ヴィターリ：シャコンヌ (レスピーギ編曲)

リチャード・エルサツァー（オルガン）／1950年8月4日録音／
RCA LM 2074／再収録RCA 61 755／(9'38)

このトマソ・アントニオ・ヴィターリによる《シャコンヌ》こそ、若きヤッシャ・ハイフェッツが1917年10月27日、ニューヨークのカーネギー・ホールでの初リサイタルにて最初に弾いた曲である。録音は一回だけ、1950年におこなった。

[No.21] コルンゴルト：ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.35 第1楽章

ロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団（アルフレッド・ウオーレン
スタイン指揮）／1953年1月10日録音／RCA LM 1782／再収録
RCA 09026 61752／（7'47）

ハイフェッツは1947年にこの協奏曲を初演し、作曲者が望んだとおり、
ときには狂おしいほどセンチメンタル、ときには滑稽にと、狂詩曲風の解
釈を見事に聴かせている。おもな主題は1930年代末の映画音楽から取ら
れており、目を閉じればハリウッド映画のスターたちの姿が、それもこち
らの望み次第の最高のキャスティングで浮かんでくる。

Zino Francescatti

(1902-1991)



"Magnificent"

IS THE WORD FOR
FRANCESCATTI

According to the New York Times
and New York Herald Tribune
of December 5, 1942

CONCERT MANAGEMENT ARTHUR JUDSON, INC., Division of Columbia Concerts, Inc., 112 West 57th St., N.Y. BALDWIN PIANO
COLUMBIA RECORDINGS



使用楽器

ストラディヴァリ (1727年)

「ハート」は、現在はサルヴァトーレ・アツカルドの所有楽器。

アンドレア・グアルネリ

サンクトゥス・セラフィンは、セザール・トムソンの所有楽器だったが、現在はガエタヌ・ブルヴォーの使用楽器。

スカランペツラ



CD-ROM

[No.22] パガニーニ：ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 Op.6 第1楽章

フィラデルフィア管弦楽団 (ユージン・オーマンディ指揮) / 1950年
1月15日録音 / コロンビア ML 4315 / 再収録 CBS MPK 46728 /
(15'57)

パガニーニの伝統を継承する演奏であり、フランチェスカッティを有名にした録音の一つ。率直な表現、ヴィルトゥオーソ、多彩な抒情性で、この有名な《協奏曲》の燃えあがる炎と澆刺とした勢いを見事に聴かせてくれる。カデンツァはセヴシック作。

[No.23] ラヴェル：ヴァイオリンソナタ ト長調 第2楽章

アーサー・バルサム (ピアノ) / 1955年1月11日録音 / コロンビア
ML 5058 / 再収録ソニー SM2K 61722 / (5'35)

洗練された奏法、日光を思わせる響き、思い切りの良いヴィブラート。これぞフランチェスカッティのスタイルの特徴であり、甘美な味わいにて咲き誇る花といった風情だ。弾き手は旋律線をくまなく、どこまでも美しく歌おうとしている。いまや伝説となったシンプルな表現と、持って生まれた「ベルカント」のセンスがうかがわれる。

Nathan Milstein

(1903-1992)

M I L S T E I N





使用楽器

ストラディヴァリ (1716年)

「ex- ゴールドマン」は、ミルシテインが自分の妻と娘の名である「マリア＝テレサ」という名前に変更した。

ストラディヴァリ (1703年)「ダンクラ」

シャルル・ダンクラの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1710年)「ダンクラ」

シャルル・ダンクラとルイス・クラスナーの所有楽器で、のちに江藤俊哉の所有となった。

ストラディヴァリ (1719年)「モナステリオ」

ルツジェーロ・リッチの所有楽器でもあった。



著作

『ロシアから西側へ』(プシュエ／シヤステル社、1991年、パリ)



CD-ROM

[No.24] J. S. バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第3番
ホ長調 BWV1006 第1楽章

1956年3月録音／キャピトル PCR 8370／再収録 EMI ZCMB 64793
23／(3'10)

無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ全六曲はすべてのヴァイオリニストにとっての枕頭の書であり、レパートリーの頂点の一つである。ナタン・ミルシテインはこの曲集の計り知れない精神性と奥深さに挑んだ最初の奏者の一人であり、生涯にわたってこの曲集を演奏し、絶え間なく自然で清澄な絶対の境地を摸索し続けた。この音源は彼が最初におこなった全曲録音の抜粋で、技術的にも成熟の度合いからすでに最高のレベルに達していることがうかがえる。フリッツ・クライスラーが彼のことを「理想のヴァイオリニスト」と言ったそうだ。

[No.25] ゴルトマルク：ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 Op.28

第1楽章

フィルハーモニア管弦楽団（ハリー・ブリーチ指揮）／1957年六月録音
／キャピトル SP 8414／再収録テストメント SBT 1047／（14'04）

ミルシテインはこの熱きロマンティシズムとセンシビリティに満ちた曲を好み、情熱をこめて演奏した。クリスタルの響きと繊細なヴィルトゥオーソ。とぎれることのない瑞々しさは、天才ならではの冴えと呼びたい。このロシアの巨匠の録音のなかでも特に価値ある曲である。

MAISON GAVEAU - Salle des Concerts
45-47, RUE LA BOËTIE

Judi 8 Décembre 1938, à 21 heures
(ouverture des portes à 20 h. 30)

UNIQUE RÉCITAL

avant le départ pour la dixième tournée aux Etats-Unis

donné par

MILSTEIN

Au piano Gaveau : **Artur BALSAM**

AU PROGRAMME : Sonate "Le Trille du Diable" - Tartini
Sonate sol mineur (pour violon seul) - **Bach**, Sonate
ré mineur - **Brahms**, Deux caprices N° 16 et 17 et
le Concerto ré majeur de **Paganini**.

DISQUES : COLUMBIA

PRIX DES PLACES : DE 10 A 50 FRANCS

Location : Salles Gaveau, Pleyel, chez Durand, 4, place de la Madeleine, Rouart-Lerolle, 40, boulevard Malesherbes. Max Eschig, 48, Rue de Rome et dans toutes les Agences.

OFFICE THÉÂTRAL EUROPÉEN "O. T. E."
16, Rue de Gramont, PARIS - Téléph. : Richelieu 80-62

Erica Morini

(1904-1995)





使用楽器

ストラディヴァリ (1727年)「ダヴィドフ」

いまだに見つかっていない。



CD-ROM

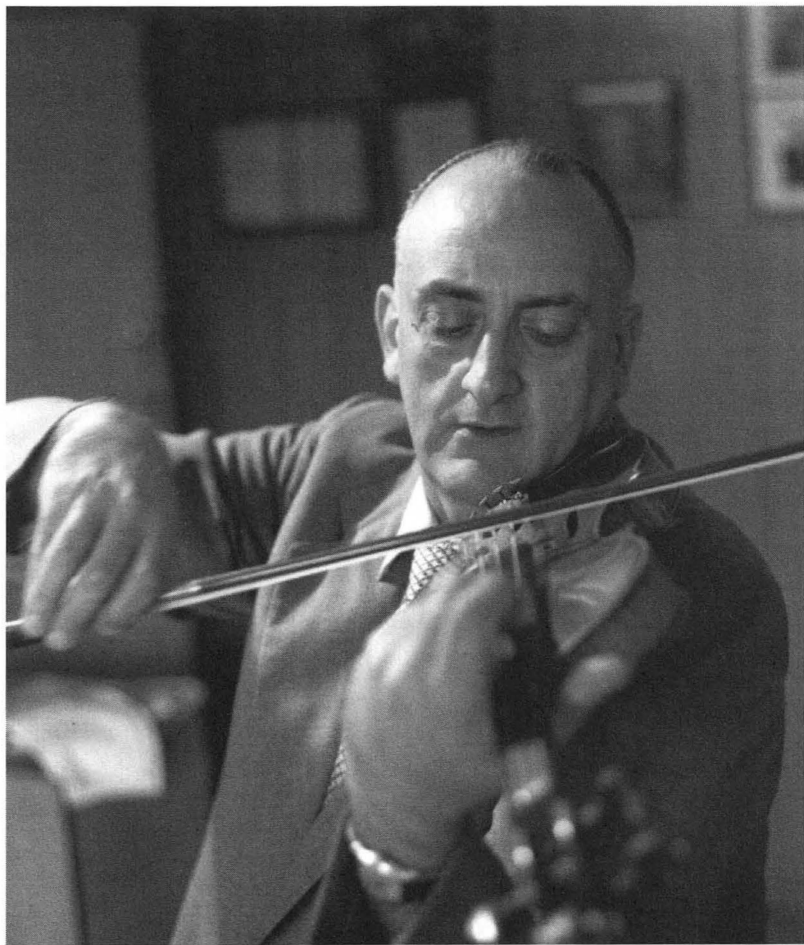
[No.26] ヴィエニャフスキ：カプリッチョ・ワルツ ホ長調 Op.7

マックス・ランナー (ピアノ) / 1941年11月7日録音／ビクター 11-8761 A / 再収録 Biddulph 80168 / (4'22)

歓喜にあふれ、モリーニならではの「古きヨーロッパ」の香りたてよう演奏スタイルは、シャンパンの泡がはじけるようなこの曲「カプリッチョ・ワルツ」にぴったりだ。

Alfredo Campoli

(1906-1991)





使用楽器

ストラディヴァリ (1700 年)

ストラディヴァリ (1702 年)「カンポーリ」

ストラディヴァリ (1706 年)「ドラゴネッティ」

のちにフランク・ペーター・ツィンマーマンの使用楽器となった。



CD-ROM

[No.27] アントニオ・バッジニ：妖精の踊り Op.25

エリック・グリットン (ピアノ) / 1947 年 4 月 19 日録音 / テッカ K

1799 / 再収録 ダットン CDBP 9718 / (3'58)

空気のように軽やかなボーイングは、二十世紀における独創的な才能のきわみと言えよう。

Gioconda De Vito

(1907-1994)





使用楽器

ストラディヴァリ (1690年)「トスカーナ」

ストラディヴァリ (1715年)「バツジーニ」

アントニオ・バツジーニの所有楽器だった。

フェルディナンド・ガリアーノ (1762年)



CD-ROM

[No.28] ブラームス：ヴァイオリンソナタ 第1番 ト長調 Op.78 第1楽章

エドウィン・フィッシャー (ピアノ) / 1954年5月11、12日録音 /

HMV ALP 1282 / 再収録テストメント SBT 1024 / (10'24)

偉大なるエドウィン・フィッシャーの隣で、デ・ヴィートは力強さと柔和さのあいだの精緻なバランスで魅力を発散している。静謐なテンポに高貴な詩情を薫らせ、デ・ヴィートの磨き抜かれた歌は、心を揺り動かす憂愁のソナタに光明を映し出す。

David Oïstrakh

(1908-1974)



アメリカ・デビューの頃のダヴィッド・オイストラフ。



使用楽器

ストラディヴァリ (1736年)「ユスボヴ」

ロシア政府のコレクションに含まれる楽器で、1937年から1950年代初頭までダヴィッド・オイストラフによって演奏され、同様にレオニード・コーガンの使用楽器でもあった。

ストラディヴァリ (1702年)「フォンタナ伯」

1955年に購入され、次いでフランコ・グツリの使用楽器となった。

ストラディヴァリ (1705年)「マルシック」

1966年に購入された。マルタン・マルシックの使用楽器で、現在はイーゴリ・オイストラフの演奏楽器である。

ストラディヴァリ (1714年)「ペルー」

ジャック・ティボーの所有楽器で、現在はオイストラフの孫ヴァレリー・オイストラフの演奏楽器である。

ガールネリ・デル・ジェス (1737年)

ヨーゼフ・ヨアヒムの所有楽器で、次いでユージン・フォドアの使用楽器となった。

トマシュ・パヌフニク (ポーランドの楽器製作者)

1934年のヴィエニャフスキ・コンクールの副賞として与えられた。



CD-ROM

[No.29] ショスタコーヴィチ：ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 Op.77 (旧99) 第1楽章

ニューヨーク・フィルハーモニー管弦楽団(ディミトリ・ミトロプーロス指揮) / 1956年1月2日録音 / COL ML 5077 / ソニー・クラシカル MHK 63327 / (11'57)

曲を献呈されたオイストラフ本人による演奏は、いまま決定版と呼ぶにふさわしい。緊迫感、執拗さ、矛盾で引き裂かれるような苦悩、激情または散在する光の瞬間にも似た悲痛、確信の力、あふれんばかりの詩情。それらすべての点において、幾世代ものヴァイオリニストが束になっても太刀打ち

できないと認め、敬意を払い続ける。ここに収録したのはアメリカ初演の演奏だ。

[No.30] サン＝サーンス：序奏とロンド・カプリチオーソ Op.28

ボストン交響楽団（シャルル・ミュンシュ指揮）／1955年12月14日

録音／RCA LM 1988／再収録 RCA 74321 840392／（8'57）

オイストラフがアメリカでデビューしたときに収録された。

Szymon Goldberg

(1909-1993)



Photo: Iles Ring

SZYMON GOLDBERG

Polish Violinist

*New to this Country
Destined to Assume
an Important Position
in its Musical Life.*

Soloist, Season 1949-1950 with following orchestras:

New York Philharmonic-Symphony (Mitropoulos conducting)
Cleveland Symphony (Szell conducting)
Los Angeles Symphony (Wallenstein conducting)
Seattle Symphony (Linden conducting)
Denver Symphony (Caston conducting)
Rochester Symphony (Leinsdorf conducting)
Oklahoma State Symphony (Alessandro conducting)
El Paso Symphony (Brown conducting)
Harrisburg Symphony (Raudenbush conducting)
Tulsa Symphony (Brown conducting)

and others.

New York, Carnegie Hall, October 25th 1949. Goldberg will appear in a special program for violin solo and string orchestra (23 musicians).

Spring of 1949. Goldberg is now on an extended tour of Europe, visiting Holland, Belgium, Scandinavian countries, Switzerland, et al.

Management: COPPICUS & SCHANG, Inc.
113 West 57th Street, New York 19, N. Y.
Division: Columbia Artists Management, Inc.
Parlaphone Records



使用楽器

ストラディヴァリ (1711年)「レグニツァ」

1930年代にゴールドベルクが購入した。

グアルネリ・デル・ジェス (1734年)「パロン・ヴィッタ」

1950年代以降にゴールドベルクが演奏した。



CD-ROM

[No.31] モーツァルト：ヴァイオリンソナタ 第36番 変ホ長調 K380

第3楽章

リリー・クラウス (ピアノ) / 1937年4月20～21日録音 / Parlophone
SW 14/20 / 再収録 Dante LYS 410 / (4'01)

息づかい、推進の流れ、休符でさえも惚れ惚れとさせられる。ゴールドベルクのヴァイオリンとリリー・クラウスのピアノは、楽譜を超越したところで、もはや言葉で言い表せないほど素晴らしい組みあわせであり、繰り返し聴いても飽きることがない。まさに永遠の美。二人のあいだの対話に耳を澄ませていると、転調や弾き手の呼吸ごとに驚かされる連続だ。絶妙のバランスと加減は奇跡を思わせ、二人がこれほどに打ち解けている様子は幸福の極みと呼びたい。

Wolfgang Schneiderhan

(1915-2002)



WOLFGANG SCHNEIDERHAN

PHOTO-ATELIER

*Pietzner-
Fayer*

WIEN I, OPERNRING 1 (HEINRICHHOF), RUF B 26 4 26, B 26 4 23



使用楽器

ストラディヴァリ (1704年)「リービツヒ」



CD-ROM

[No.32] ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ 第7番 ハ短調 Op.30-2
第3楽章

ヴィルヘルム・ケンプ (ピアノ) / 1952年9月録音 / ドイツ・グラモフォン
463 605-2 / (3'46)

その高雅な演奏は精緻にして明晰、古典的で純度が高い。

Yehudi Menuhin

(1916-1999)

Golden Fulfillment of Ageless Genius



Untouched by the world's idolatry . . . Menuhin the Master plays . . . and again a miracle is performed! The Immortals of Music have entrusted to him their heritage of genius, laid their gifts, deep in his interpretive soul. Drawing forth a tone of exquisite dream-created loveliness, Menuhin reaches the secret place in every listening heart.

"His tone is one of the most enchanting sounds in violin history. His skill thrills by its quickness, fire and daring, luscious warmth."

San Francisco Examiner, Oct. 2, 1939

"Transported out of Carnegie Hall straight up to music heaven. . . . There is a curious human longing for things of this mythological sort, fauns, fairy tales, menuhins."

New York Mirror, Dec. 30, 1939

"Capacity-crowded County Center heard Yehudi Menuhin weave magic from a violin and bow. Sounds emanated from the stage sweet and mellow as remembrance of a lovely dream."

Wheat Plains Weekly Times, Dec. 22, 1939

"Menuhin approached his herculean task with loving care . . . heavenly melody soaring high above the orchestra."

Washington (D. C.) Star, Jan. 3, 1940

"His genius has no limitations . . . one of the great viola virtuosos of all time. The old masters lived again. Behind his nimble fingers and magic wrist is a brain steeped in melody and a consciousness of what it means."

Asheville (N. C.) Times, Jan. 9, 1940

"Complete unfoldment of the robust spirit of Bach and the matching genius of Menuhin. Singing melodies, cascades of rhythm like the sparkling play of myriad fountains under colored lights made the listener wonder what now magic a violin suddenly possessed."

Bakersfield Californian, Oct. 18, 1939

"An artist of mature and challenging individuality, a technician of formidable powers, a musician of implacable integrity . . . violin playing in great and enduring tradition. . . ."

New York Sun, Dec. 5, 1939

"Audience packed hall, stage and every available inch of standing room . . . really a breath-taking revelation . . . Mr. Menuhin made his finger talk, sing, strum, ring bells, leap about like fireflies and fill the air with sparks."

New York World-Telegram, Dec. 5, 1939

"Menuhin excelled himself in a program extraordinary for even a genius . . . completely lifted the audience as it realized that it was listening to a new extension of what must have been the graces of Paganini."

Los Angeles Herald-Examiner, Oct. 11, 1939

"Menuhin's warm, vital tone ran like a golden thread through the rich orchestral brocade of the Chausson 'Poem'."

Minneapolis Times Tribune, Nov. 18, 1939

"Menuhin draws his bow across the heart-strings of humanity . . . heavenly music to inspire and magnificent one feels the urge to kneel and pray instead of applauding!"

Seattle Daily Times, Nov. 2, 1939

"Musicians and laymen alike were struck by his smooth and lovely tone, uncanny command of his bow . . . presented the rich musical designs in the grand manner, as one genius interpreting another."

Portland (Ore.) Daily Journal, Nov. 4, 1939

"What a perfect ending to a day of thanksgiving! Yehudi Menuhin made of it a prayer and a rejoicing. . . ."

Detroit Free Press, Nov. 24, 1939

"For thousands upon thousands of the public it was the ideal violin tone. Molten gold or quicksilver, or warm and human and robust, it was incomparable. Listeners wanted it to go on forever."

Winipeg Free Press, Nov. 14, 1939



使用楽器

ストラディヴァリ (1714年)「ソイル」

現在はイツァーク・パールマンの所有楽器。

ストラディヴァリ (1733年)「プリンス・ケーフェンヒュラー」

かつてヨーゼフ・ベームの使用楽器だった。

ガアルネリ・デル・ジェス (1742年)「ロード・ウィルトン」

ガアルネリ・デル・ジェス (1739年)「エヴァーショルト」

1995年からリーラ・ジョゼフォウィッツの使用楽器である。

ガアルネリ・デル・ジェス「デグヴィル伯」

サンクトゥス・セラフィン

メニューインがジオルジュ・エネスコから譲り受けた。

ジョヴァンニ・グランチーノ

グレン・コリンズ (1987年)

スピドレン

ポッジ



著作

『ヴァイオリン演奏の芸術』『ユーティ・メニューインとの六つのレッスン』
(ビュシュネ／カステル刊、1973年、パリ)

『未完の旅』(スイユ刊、1976年、パリ)

『サー・エドワード・エルガー、わが音楽の祖父』(エドガー・ソサエティ刊、
1976年ロンドン)

『私の好きな音楽物語』(Lutterworth Press刊、1977年、ロンドン)

『ユーティ・メニューイン ヴァイオリンを語る』(ウィリアム・プリムローズとの共著、Hatier刊、1978年、パリ)

『主題のない変奏曲』(ビュシュネ／カステル刊、1980年、パリ)

『The Music of Man, Conversation with Yefudi Menuhin』(カーティス・
W・デイヴィスとの共著、1980年、ロンドン)

『The King, The Cat and The Fiddle』(ホルト、ラインハルト・アンド・ウィ

ンストン刊、1983年、ロンドン)

『Life Class』(ウィリアム・ハインマン私家版、1986年、ロンドン)

『芸術、人への希望』(ビュシュネ／カステル刊、1987年、パリ)

『師の教え』(ビュシュネ／カステル刊、1987年、パリ)

『ヴァイオリンの伝説』(フラマリオン刊、1996年、パリ)



CD-ROM

[No.33] ブロッホ：アボダー

ヘンドリック・エント(ピアノ) / 1939年3月14日録音 / HMV DB
3782 / 再収録 Biddulph LAB 128 / (4'58)

エルネスト・ブロッホが《アボダー》を献呈したとき、幼きユーディは七歳だった。ブロッホからすれば、信仰の奇跡をあらためて見せつける天才児への捧げ物にも等しかったはずだ。メニューインはその存在によって多くの同時代の作曲家の創作意欲に火をつけた。この演奏は長い献呈作品リストの最初を飾る一曲。

[No.34] メンデルスゾーン：ヴァイオリンソナタ ヘ長調 (1838年)

第2楽章

ジェラルド・ムーア(ピアノ) / 1952年10月8日録音 / HMV ALP
1085 / 再収録 EMI CDM 7 63988 2 / (6'42)

メニューインが再発見し、1953年に出版した作品である。

Oscar Shumsky

(1917-2000)





使用楽器

ストラディヴァリ (1715年)「ロード」

ピエール・ロードとレオポルト・アウアーの所有楽器だった。



CD-ROM

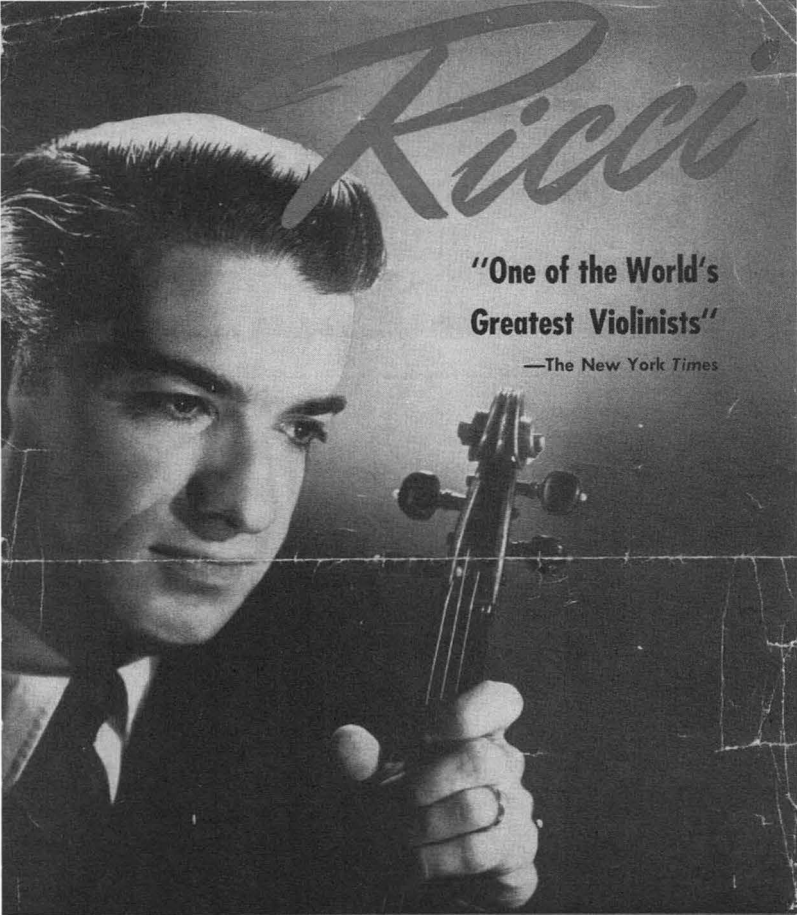
[No.35] ジョヴァンニ・バッティスタ・ヴィオッティ：ヴァイオリン協奏
曲 第22番 イ短調 第3楽章

ウラジミール・ソコロフ (ピアノ) / 1950年録音 / ラジオ放送用に収録
/ 再収録 Bidduoph LAB 136 / (7'11)

ブラームスが気に入っていたというヴィオッティのこの傑作の真価を見せつける演奏。当時はまだ協奏曲をピアノ伴奏で弾くのが当たり前だった。

Ruggiero Ricci

(1918-)



Ricci

**"One of the World's
Greatest Violinists"**

—The New York Times

CARNEGIE HALL

Wednesday Evening, October 14, at 8:30



使用楽器

グアルネリ・デル・ジェス (1734年) 「ギブソン」

ブロニスワフ・フーベルマンの所有楽器だった。

グアルネリ・デル・ジェス (1734年) 「カンボセリーチェ」

現在はリン・チョーリヤンの所有楽器。

ストラディヴァリ (1683年) 「トノーニ」

ストラディヴァリ (1714年) 「ヨアヒム」

ヨーゼフ・ヨアヒムの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1719年) 「モナステリオ」

ヘスス・デ・モナステリオとナタン・ミルシテインの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1727年) 「ネストール」

ピエール・ロードの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1737年) 「ロード・ノートン」

ロレンツォ・ストリオーニ (1779年)

J. B. ヴィヨーム



著作

『Left-hand Violin Technique』(G・シルマー)

『Ricci on Glissando : The Shortcut to Violin Technique』(Gregory H.Zahia / インディアナ大学出版 / 2007年)



CD-ROM

[No.36] バガニーニ : 24のカプリース Op.1-13 変ロ長調

1949年録音 / デッカ LXT 2588 / 再収録 Dynamic CDS 393/3 / (2'35)

バガニーニ《24のカプリース》全曲の無伴奏ヴァイオリンによる世界初録音から抜粋。

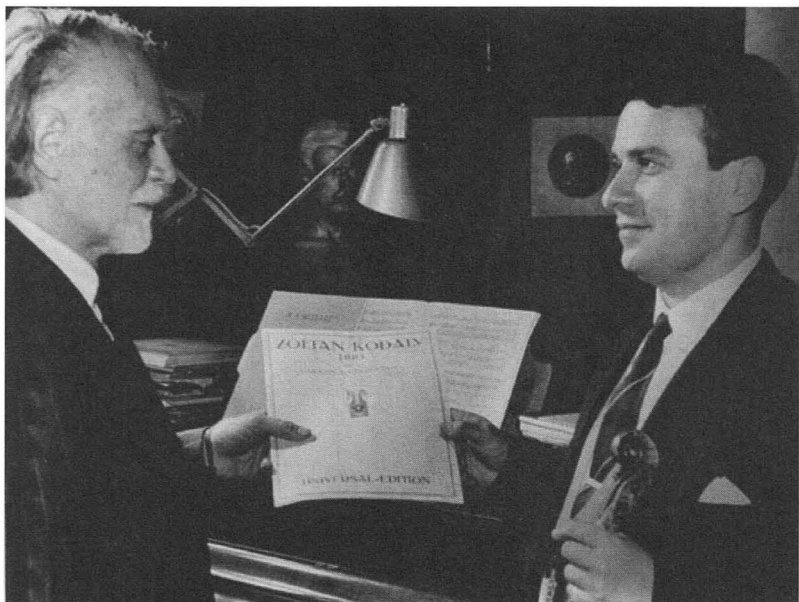
[No.37] サラサーテ : 序奏とタランテラ Op.43

ルイス・パーシング (ピアノ) / 1953年11月録音 / デッカ LXT 2930 / 再収録デッカ 458 191 2 / (4'31)

絢爛なヴィルトゥオーソを、師匠ルイス・パーシングのピアノ伴奏で聴くことができる。

Henryk Szeryng

(1918-1988)





使用楽器

ガアルネリ・デル・ジェス (1734年)「デューク」

ストラディヴァリ (1734年)「ヘラクレス」

アンドレア・ガアルネリ

グアダニーニ

ヴィヨームを二挺

そのうち一挺はストラディヴァリ「メシア」の複製



CD-ROM

[No.38] J. S. バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番

ニ短調 BWV1004「シャコンヌ」

1954年録音／オデオン 122/124 ／再収録 CBS MP2K 46721 ／(14'00)

このバッハ無伴奏の名手による最初の全曲録音。

Ginette Neveu

(1919-1949)



ジネット・スヴーとマルセル・ヴァトロ。ヴァトロの楽器工房にて（パリ、1949年頃）。

エティエンヌ・ヴァトロのプライベート写真。



使用楽器

フランソワ・リュボ

オモボーノ・ストラディヴァリ (1730年)

飛行機事故で壊れてしまい、事故現場からはヘッド部分だけが発見された。(オモボーノはアントニオ・ストラディヴァリの息子)

G. B. グァダニーニ



CD-ROM

[No.39] ラヴェル：ツィガーヌ

ジャン・ヌヴェー (ピアノ) / 1946年3月26日および8月13日録音 /
HMV DB 6907/8 / EMI CDH 763493 2 / (10' 17)

パブロ・カザルスが「完璧さ、バランス、センス。あとは彼女が演奏の力によって聖なる狂気をつけ加え、すべてを委ねてしまっただけのこと」と絶賛した演奏。

Isaac Stern

(1920-1991)



エティエンヌ・ヴァトロの執務室でのアイザック・スターンと著者。1997年パリ。

© マリオン・カルター



使用楽器

グアルネリ・デル・ジェス「パネット」(1737年)

1947年にスターンが購入し、1994年に手放した。2005年以降、所有者であるスイス銀行からルノー・カピュソンに貸与。

グアルネリ・デル・ジェス(1749年)

ウジェーヌ・イザイの所有楽器で、イザイ直筆で「このヴァイオリンはわが音楽人生の忠実な同伴者だった」と書かれた札がついている。現在はピンカス・ズーカーマンの使用楽器。

ストラディヴァリ(1721年)「クルーズ」

ロドルフ・クルゼール(クロイツェル)の所有楽器だった。

カルロ・ベルゴンツィ

現在はパーヴォ・ベルグンドの所有楽器。

G. B. グアダニーニ(1750年)

G. B. グアダニーニ(1754年)

現在はボリス・ベルキンの所有楽器。

J. B. ヴィヨーム(1846年)「皇帝(ツアー)」



著作

『すばらしきかな、わがヴァイオリン人生』(2000年)



CD-ROM

[No.40] バーンスタイン：プラトンの饗宴によるセレナード 第1楽章

シンフォニー・オブ・ジ・エア(レナード・バーンスタイン指揮) / 1956年4月19日録音 / コロンビア ML 5144 / 再収録 ソニー・クラシカル SM3K 45956 / (7'00)

セレナードの世界初録音からの抜粋。曲を献呈されたスターン自身による初演。

[No.41] J. S. バッハ：ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 BWV1041

第2楽章

プラド祝祭管弦楽団(パブロ・カザルス) / 1950年6月16日録音 / コロンビア ML 4353 / 再収録 ソニー・クラシカル SMK 58982 / (7'40)

第一回プラド音楽祭でのパブロ・カザルス指揮による演奏。カザルスのことをスターンは「途方もない庭園への扉を開いてくれた人物」と言っていた。

Arthur Grumiaux

(1921-1986)



レコードのプレス工場でのアルテュール・グリュミオー。

©Hans Kahan/SOFM.



使用楽器

ストラディヴァリ (1715年) 「ティティアン」

エフラム・ジンバリストの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1727年) 「ジェネラル・デュボン」

現在はジェニファー・コーの使用楽器。

ガルネリ・デル・ジェス (1744年) 「ヘメル」

現在はウート・ウーギの所有楽器である。

J. B. ヴィヨーム

G. B. グアダニーニ (1773年)

現在はジョゼフ・シルヴァースタインの所有楽器である。



CD-ROM

[No.42] モーツァルト：ヴァイオリンソナタ 第40番 変ロ長調 K454

第1楽章

クララ・ハスキル (ピアノ) / 1956年1月録音 / フィリップス A
00338 L / 再収録フィリップス PHCP 4908 / (7'13)

アルテュール・グリユミオーとクララ・ハスキルによるデュオは、音楽史上の奇跡と呼ぶにふさわしいデュオであった。これぞピアノとヴァイオリン、そして相互理解と共感、指向性、息づかい、弓先で聴きあうエモーションの共有。すべてにおける頂点である。洗練とは何かを教えてくれる。

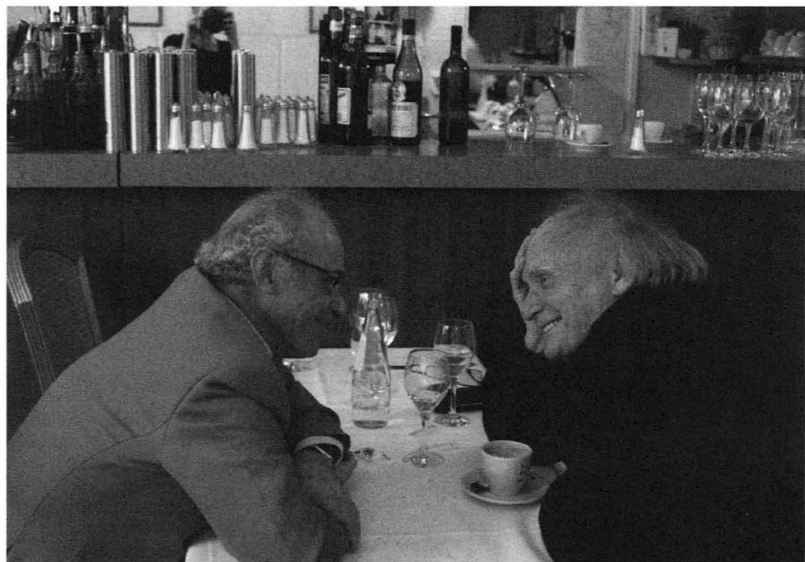
[No.43] ブラームス：ヴァイオリンソナタ 第2番 イ長調 Op.100

第3楽章

アルテュール・グリユミオー (ピアノ) / 1959年10月録音 / フィリップス 802839 LY / 再収録フィリップス PHCP 4933 / (5'01)
ヴァイオリニスト本人がピアノ伴奏もしているというきわめて珍しい音源。

Ivry Gitlis

(1922-)



イヴリー・ギトリスと著者。2008年2月パリ。

© ジャン＝ミシェル・モルク



使用楽器

ストラディヴァリ (1713年)「サンシー」

チェコ出身の偉大なヴィルトゥオーソ、ヤン・クーベリック (1880 - 1940 年) が所有していたヴァイオリンである。



著作

『魂と弦』(ロベール・ラフォン / 1980 年)



CD-ROM

[No.44] バルトーク：ヴァイオリン協奏曲 第2番 第1楽章

ウィーン・プロ・ムジカ管弦楽団 (ヤツシャ・ホーレンシュタイン指揮)
/ 1954年録音 / ヴォクス PL 9020 / 再収録 ヴォクス CDX2 5505 /
(14'47)

ヴァイオリン協奏曲第二番の火山のように激しいこの録音は、曲が傑作であるのと同じように、ヴァイオリンの録音史における頂点にとどまり続けるものである。

Josef Hassid

(1923-1950)





使用楽器

J. B. ヴィヨーム (1845年)

フリッツ・クライスラーから貸与された。



CD-ROM

[No.45] サラサーテ：スペイン舞曲集 Op.23-2「サバテアード」

ジェラルド・ムーア (ピアノ) / 1940年6月12日録音 / HMV C

3815 / テスタメント SBT 1010 / (3'30)

「二百年に一人の逸材」と呼ばれた鬼才による炎のようなテンペラメントを確認できる。きわめて珍しい音源の一つ。

Ida Haendel

(1924-)





使用楽器

ストラディヴァリ (1699年)

ストラディヴァリ (1726年)



著作

『ウーマン・ウィズ・ヴァイオリン』(リトルハンプトン・ブック・サーヴィス限定版/ロンドン/1970)



CD-ROM

[No.46] ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.61 第3楽章

フィルハーモニア管弦楽団 (ラファエル・クーベリック指揮) / 1949年9月15～16日録音 / HMV C 4126-31 / 再収録 テスタメント SBT 1083 / (9'30)

この音盤が最初に出たとき、先行するクライスラー、ハイフェッツ、メニューイン、シゲティ、フーベルマンといった大ヴァイオリニストのレコードと同格に扱われた。まっとうな様式感と堂々としたタッチ。世に出た時点で彼女は偉大な奏者としての風格を身につけていた。

カデンツァはヨアヒム作。

Leonid Kogan

(1924-1982)



Kogan



使用楽器

ガアルネリ・テル・ジェス (1726年)「コリン」

ガアルネリ・テル・ジェス (1731年)「イーティス・メロン」

ガアルネリ・テル・ジェス (1733年)「ブルマイスター」

ストラディヴァリ (1736年)「ユスポフ」

ダヴィッド・オイストラフの使用楽器でもあった。



CD-ROM

[No.47] ハチャトリアン：ヴァイオリン協奏曲 二短調 第2楽章

モスクワ放送交響楽団 (アラム・ハチャトリアン指揮) / 1951年6月
25日録音 / メロディア D 0548/9 / 再収録 ブリリアント・クラシッ
クス 93030 / (11'52)

レオニード・コーガンのヴァイオリンと、作曲家本人の指揮のもと、雄々
しさ、生气、詩情が崇高に表現され、この曲の演奏における最高峰の一つと
なっている。

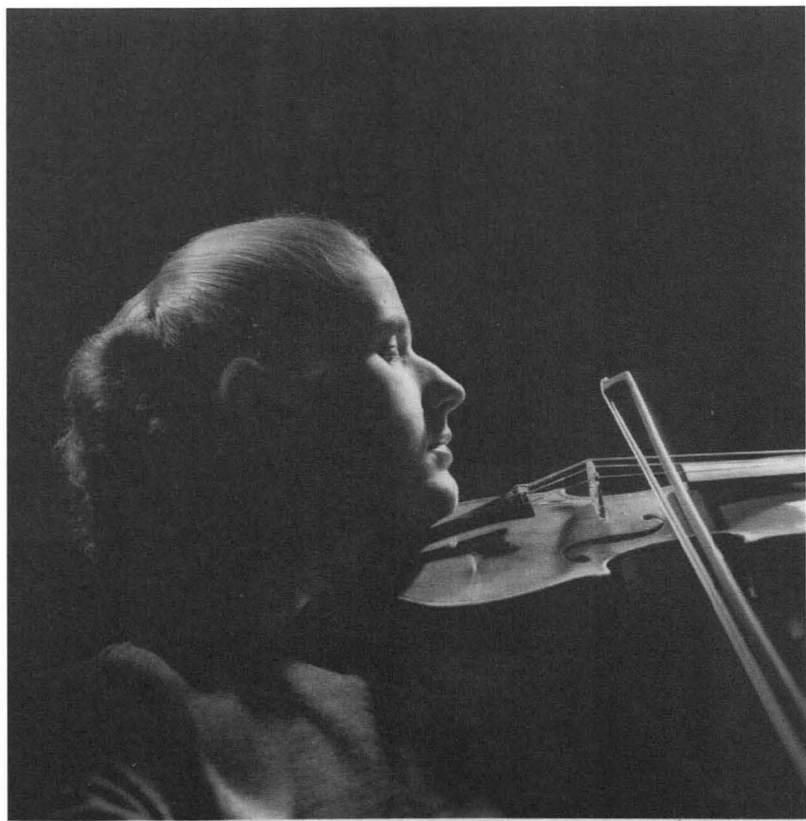
[No.48] チャイコフスキー：ワルツ・スケルツォ Op.34

ソ連放送交響楽団 (アレクサンドル・ガウク指揮) / 1952年5月29
日録音 / メロディア D 010627 / 再収録 ブリリアント・クラシックス
93030 / (5'21)

白熱、豊満、完璧な造形美。すべてが最高レベルで結実している。

Johanna Martzy

(1924-1979)



ヨハンナ・マルツィの写真は珍しい。1955年頃

©Couglass Glass.



使用楽器

ヴェネツィアのピエトロ・ガアルネリ「ex-カール・フレッシュ」

ストラディヴァリ（1733年）「ex-クライスラー」、「ex-フーベルマン」

カルロ・ベルゴンツィ（1733年）「タリシオ」



CD-ROM

[No.49] ドヴォルザーク：ヴァイオリン協奏曲 イ短調 Op.53 第1楽章

「RSO」ベルリン・ドイツ交響楽団（フィレンツ・フリッチャイ指揮）／

1953年6月録音／ドイツ・グラモフォン LPM 18152／再収録 ドイ

ツ・グラモフォン 462 651-2／（11'28）

心を震わせる力強さ、抑制の効いた奏法、濁りのない音色、レコード史に燦然と輝く見事なヴィジョンを聴かせてくれる。

Julian Sitkovetsky

(1925-1958)



ユリアン・シトコヴェツキー。1954 年か五五年頃。ドミトリ・シトコヴェツキーの私蔵写真。



使用楽器

ストラディヴァリ (1707 年)

ソヴィエト国家のコレクションから貸与された。

パノルモ



CD-ROM

[No.50] シベリウス：ヴァイオリン協奏曲 二短調 Op.47 第1楽章

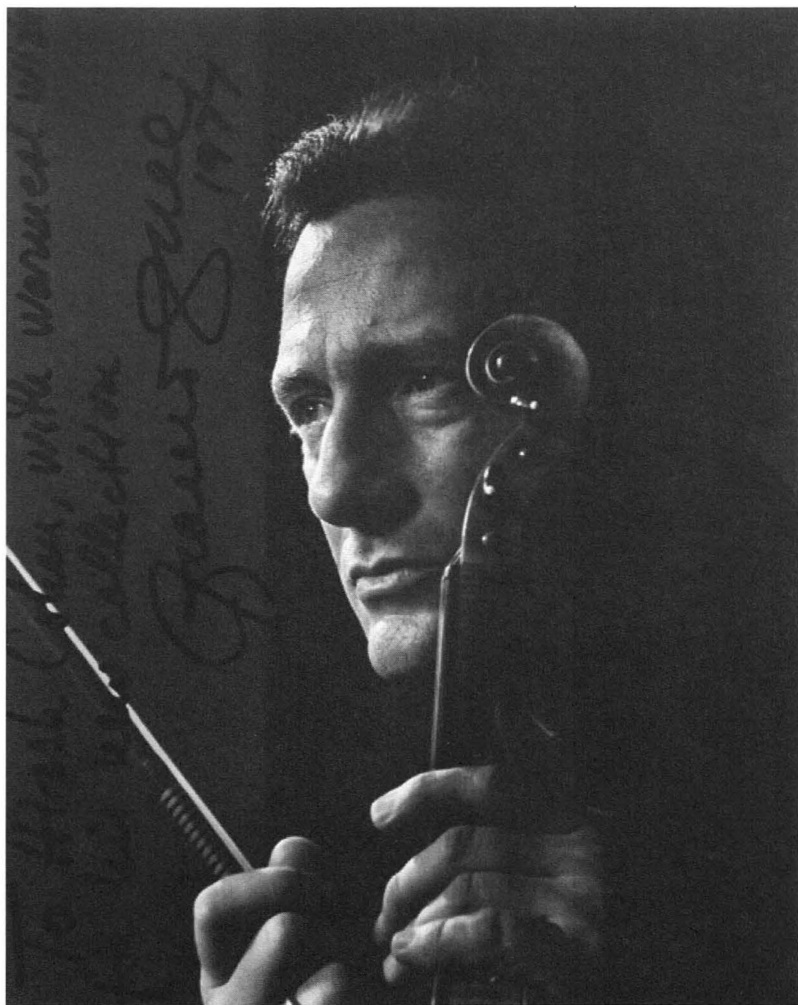
チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 (ニコライ・アノソフ指揮) / 1953

年録音 / メロディア C10-06827/8 / 再収録 SYD 006 / (13'53)

惚れ惚れする弓使い、驚異的な左手、絶妙な音量の加減。その雄弁さはときに胸が痛くなるほどだが、あらゆる細部にまで心が行き届いており、聴き手を熱狂させ、息がとまる思いをさせる。

Franco Gulli

(1926-2001)





使用楽器

ストラディヴァリ (1716年)「ベルティエル」または「フォン・ヴェチエイ」
かつてフランツ・フォン・ヴェチエイの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1702年)「フォンタナ伯」

かつてダヴィッド・オイストラフの使用楽器だった。

G. B. グアダニーニ (1742年)

セルジオ・ベレッソン (1975年)

グアルネリ・デルジェス



CD-ROM

[No.51] パガニーニ：ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ短調 MS 78 第2楽章

ミラノ・アンジェリクム室内合奏団 (ルチアーノ・ロサーダ指揮) / 958

年録音 / デッカ DL 10081 / 再収録 SARX SXAM 2038-2 / (7'35)

再発見された草稿を復元し、次いでオーケストラのパートが補筆されたパガニーニの《ヴァイオリン協奏曲第五番》を、グツリはシエナで1958年に初めて公開演奏した。イタリア風のエレガンス、熱のこもった演奏、清澄な響き、目も覚めるほどのヴィルトゥオーソ。どこをとっても一流の格調に満ちた演奏である。

Aaron Rosand

(1927-)

A BRILLIANT NEW AMERICAN ARTIST

AARON
ROSAND

*Prophesy
fulfilled!*

* 1937 Debut at 9 with
Chicago Symphony under
Frederick Stock

"Rosand made the violin talk with
the magic of uncanny fingers and a
bow arm worthy of any great veter-
an of the fiddle. He lacks none of
the requirements needed in the mak-
ing of a master violinist."

Herman Devries, Chicago American



* 1944 Guest Soloist with Chicago Symphony under Desire Defauw

"His playing has sweep and brilliance, warmth and vitality. Amazed his audience. Rosand gave a sensational account of himself."

Chicago Daily Tribune

* 1944-47 with the armed forces Special Services in the Philippines and Korea

* 1948—NOW—A violinist in the highest American tradition of mature artistry, personality and musicality.

 **NATIONAL CONCERT and ARTISTS CORPORATION**
711 FIFTH AVENUE NEW YORK 22, N. Y. ALFRED H. MORTON, President



使用楽器

グアルネリ・テル・ジェス (1741 年) 「ex- コハンスキ」

ロザンドが 1957 年に購入した。

ボツジ (1928 年)



CD-ROM

[No.52] サン＝サーンス：ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 Op.61

第2楽章

南西ドイツ放送交響楽団 (ティボール・ゼーケ指揮) / 1957 年録音 / ヴォクス PL 11590 / 再収録 ヴォクス CDX 5116 / (7'52)

ロマンティックなレパートリーを閃きに満ちた演奏で聴かせる。驚くべきヴァイオリニスト、ロザンドによるこの伝説的な音盤は、最上レベルの決定版と呼ぶにふさわしい仕上がりになっている。この炎のような奏法をハイフェッツと比較する向きもある。きわだって表情豊かなダイナミクスは、まさに偉大なロシアン・スクールの系譜の特徴でもあり、芸術的な響きと息づかいに惚れ惚れするような奥行を与えている。

Josef Suk

(1929-2011)





使用楽器

G. B. グアダニーニ (1758年) 「ex- ヴュータン」

アンリ・ヴュータン、次いでカール・フレッシュの所有楽器だった。

ガアルネリ・デル・ジェス (1744年) 「オレンジ公」

ストラディヴァリ (1783年) 「スーク」

彼の祖父ヨセフ・スクの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1710年) 「カンポセリーチェ」

アンリ・ヴュータン、次いでヴァーシャ・ブシホダの使用楽器だった。

ストラディヴァリ (1721年)

ミツシャ・エルマンの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1729年) 「リボン」

G. B. ヴィオッティの所有楽器だった。

J. B. ヴィヨーム



CD-ROM

[No.53] スク：バラード 二短調 Op.3b

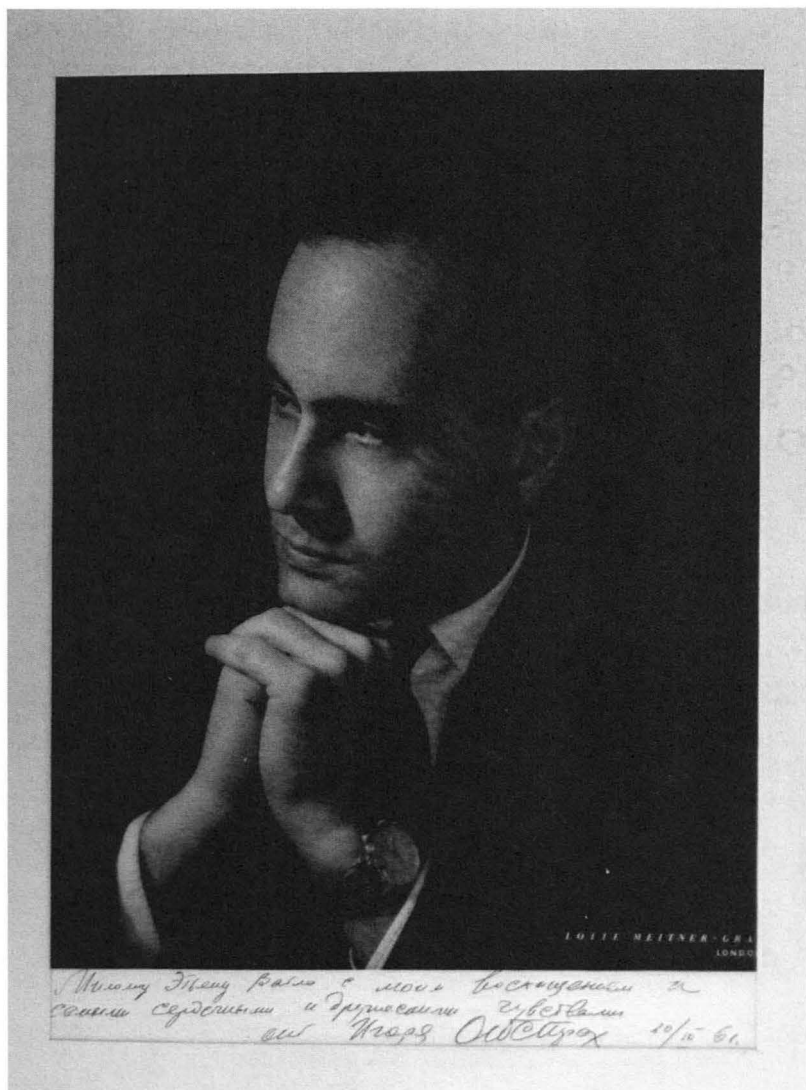
ヤン・パネンカ (ピアノ) / 1966年2月録音 / Supraphon SUA

10777 / 再収録 Supraphon SU 3777-2-2 / (8'43)

祖父が作曲したうちの一曲。スークは祖父の作品をあらためて広めることに熱心だった。

Igor Oïstrakh

(1931-)



エティエンヌ・ヴァトロ私蔵写真より



使用楽器

ガルネリ

1949年に父親から贈られた。

ストラディヴァリ (1714年)

ジャック・ティボーの所有楽器だった。



CD-ROM

[No.54] ヴィエニャフスキ：2つのヴァイオリンのためのエチュード・カプリース Op.18-2,5,4

ダヴィッド・オイストラフ (第二ヴァイオリン) / 1957年4月19日
/ ドイツ・グラモフォン EPL 30286 / 再収録 ドイツ・グラモフォン
459016-2 / (8'37)

三曲のエチュード・カプリースを父ダヴィッドとのデュオで演奏。ここでは
師匠が弟子の伴奏にまわっている。ヴィルトウオーソを聴かせるほうのパー
トがイーゴリによって演奏されているが、見事な腕の冴えだ。

Christian Ferras

(1933-1982)



クリスティアン・フェラスとエティエンヌ・ヴァトロ、1964 年年頃。
エティエンヌ・ヴァトロのプライベート写真より



使用楽器

ストラディヴァリ(1721年)「プレジデント」

ストラディヴァリ(1728年)「ミラノロ」

ジョヴァンニ・パティスタ・ヴィオツティ、ニコロ・パガニーニ、テレザ・ミラノロといった名手の手を経てきたが、現在はコリイ・セロヴシェクの演奏楽器となっている。



CD-ROM

[No.55] ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.77 第3楽章

ウィーン・フィルハーモニー（カール・シューリヒト指揮）／1954年4月
19～20録音／デッカ LXT 2949／再収録 テスタメント 1033／(7'58)

この演奏でフェラスは内臓から響き出るような音、ひと息に歌いあげるような熱のこもった節まわしを聴かせてくれる。音だけではなく、フレー징の魔術師だ。そこにはエネスコからの影響が色濃く、ヴィブラートやポルタメント、とりわけメロディ・ラインを切々と語らせる手法が独特。

Michael Rabin

(1936-1972)

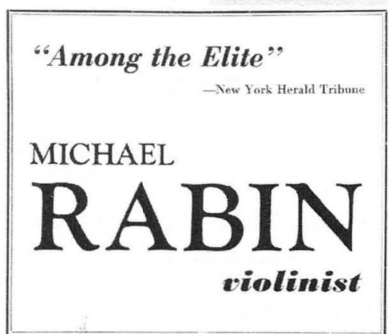


Photo: Abrecht, New York

絶頂期のマイケル・レービン



使用楽器

ガルネリ・テル・ジェス (1735年)「タウンリー」

フランツ・フォン・ヴェチエイ、ヤン・クーベリックの所有楽器だったが、
その後はチョン・キョンファの手元に移った。

ジョフレド・カップバ



CD-ROM

[No.56] パガニーニ：24のカプリース

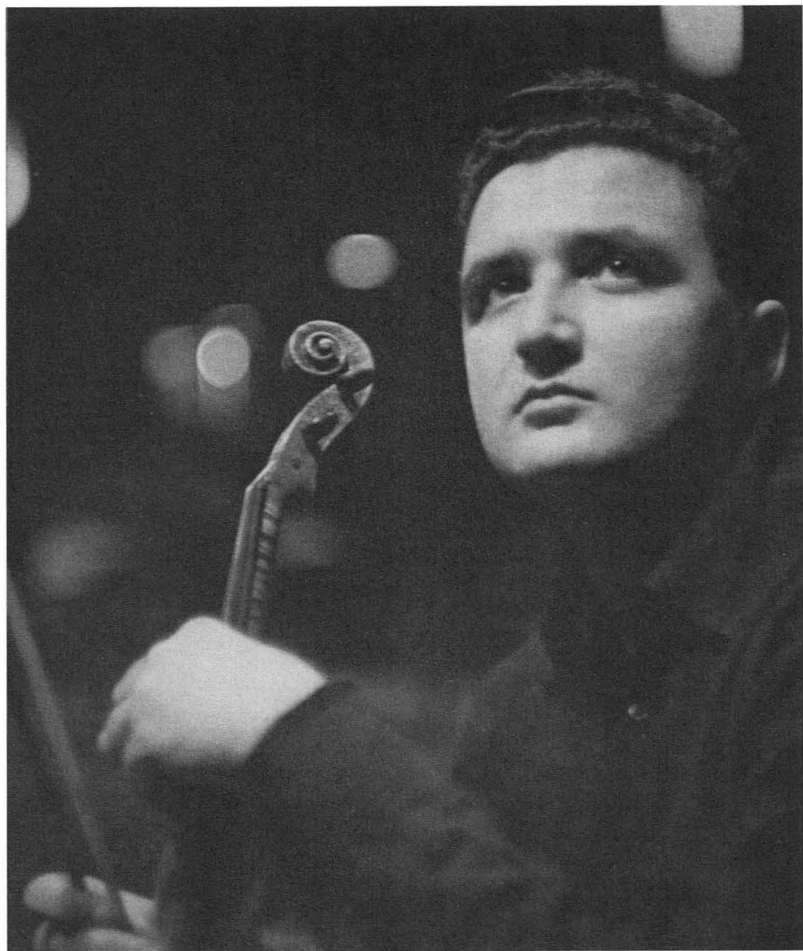
Op.1-1,5,24

1950年五月十九日録音／コロンビア MM 979／再収録 ソニー・クラ
シカル MHK 60894／(8'33)

わずか十四歳の神童によるパガニーニの《カプリース》の選曲版は、のちの伝
説的な全曲録音に先がけること八年前に録音された。この若き日の録音から
は、アメリカの同世代のヴァイオリニストを代表する才能というだけではな
く、二十世紀の巨星と呼ぶにふさわしい演奏家レービンを形成するすべての
要素が聞きとれる。信じがたいほどの流麗さ、パワーと輝きに満ちた響き、正
確な奏法と非凡な音程感覚のコーディネーション。

Salvatore Accardo

(1941-)



サルヴァトーレ・アッカルド。ジェノヴァでパガニーニ・コンクールを制した栄光の瞬間。



使用楽器

ストラディヴァリ (1717年) 「ex- リエフェンベルク」

ストラディヴァリ (1718年) 「ファイヤーバード」

ストラディヴァリ (1719年) 「ツアーン」

次いでシュロモ・ミンツの使用楽器となった。

ストラディヴァリ (1727年) 「レニエ」

次いでマキシム・ヴェンゲーロフの使用楽器となった。

ストラディヴァリ (1727年) 「ハート」

フリッツ・クライスラー、さらにジノ・フランチェスカッティの所有楽器だった。

ガルネリ・デル・ジェス (1733年) 「ラフォン」

シャルル＝フィリップ・ラフォンの所有楽器だった。

ドメニコ・モンタニャーナ (1742年)

G. B. グアダニーニ



著作

『L'Arte del Violino』(Rusconi刊、1987、ミラノ)



CD-ROM

[No.57] バガニーニ：ヴァイオリン協奏曲 第2番 口短調 Op.7「ラ・カンパネラ」第3楽章

ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団 (シャルル・デュトワ指揮) / 1975年録音 / ドイツ・グラモフォン 2530-900 / 再収録 ドイツ・グラモフォン 463 754-2 / (8'55)

華麗な演奏だ。優美で絶妙な抒情性。一時代を築いた全曲集からの抜粋。ピュアで均質な響きから自然に立ちのほるようなベルカントであり、ほんのりと演劇的な味わいも加えられている。

Vladimir Spivakov

(1944-)



 使用楽器

フランチェスコ・ゴベッティ (1716年)

ユーリ・ヤンケレヴィチの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1712年)「フリマリー」

 CD-ROM

[No.58] R. シュトラウス：ヴァイオリンソナタ 変ホ長調 Op.18 第2楽章

セルゲイ・ベズロードヌイ (ピアノ) / 2001年3月録音 / カプリッチョ

C10895 / 再収録 カプリッチョ C10 895 / (7'50)

思いきり抒情的、ダイナミクスにおいては歌を最優先にした演奏。無骨になりがちな解釈とは一線を画している。抑えたテンポで、見事な流れを作りだしている。瑞々しい詩情がきわだち、スピヴァコフならではの格調を聴かせてくれる。

Uto Ughi

(1944-)



UTO UGHI

NEW YORK, *The Times*—Feb. 27, 1967

Mr. Ughi has a past and undeniably a future; for he was a stirring performer. *Tartini's "Devils Trill" Sonata* seldom has sounded so intense. *Beethoven's "Kreutzer" Sonata* was a powerhouse. *The Bach Chaconne in D-minor* a fervid 16 minutes of unaccompanied tension. Mr. Ughi's tousled, sandy hair and youthful exuberance were appealing.

MIAMI, *The Miami Herald*—Feb. 16, 1967

When young Ughi plays, there seems to be a golden glow over everything. He uses his instrument—a mellow, brilliant Stradivarius—as it was meant to be used.

HOUSTON, *Houston Chronicle*—Feb. 9, 1967

Ughi's recital had abounded in all the pyrotechnics, the double and triple stopping, harmonics, staccatos, the swift bowing—but it is good to find that he has a feeling, too, for delicacy and poetry. He seemed not so much one incandescent young soloist there but a miraculous impresario summoning the voices of a whole symphony of strings.

LONDON, *The Times*—Sept. 30, 1963

His tone is of the purest, and holds by its dulcet quality. His intonation is impeccable, and his technique nothing short of perfection.

NORTH AMERICAN
MANAGEMENT



ERIC SEMON ASSOCIATES

111 West 57th Street • New York, N.Y. 10019 • 765-1310



使用楽器

ストラディヴァリ (1701年)「バンホーテン」

ロドルフ・クルゼール (クロイツェル) の所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1735年)「サマズイユ」

ミツシャ・エルマンの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1714年)「ジェネラル・キッド」

ミツシャ・ミシャコフそしてイツァーク・パールマンの所有楽器だった。

ガルネリ・テル・ジェス (1744年)「ヘメル」

アルテュール・グリユミオーの所有楽器だった。

ガルネリ・テル・ジェス (1744年)「オーレ・ブル」

オーレ・ブルの所有楽器だった。



CD-ROM

[No.59] J. S. バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ 第1番 ト短調 BWV1001 第2楽章

1991年9月録音／RCA RD 600971／再収録 RCA RD 600971 /
(5'47)

エネスコの弟子であるウート・ウーギは、心の波動を伝える技において最高レベルの腕前を誇り、ポリフォニーのコントロール、たつぷりとしたヴィブラート、豊かなフレージングが特徴的だ。ガルネリ・テル・ジェスの響きはこの上なく深く、音色における均質性の探究は彼の解釈に息吹と光を与えている。生き生きとして、人間的な演奏だ。

Itzhak Perlman

(1945-)





使用楽器

ストラディヴァリ (1714年)「ソイル」

ユーディ・メニューインの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1714年)「ex- シンシェイマー」「ジェネラル・キッド」

ミツシャ・ミシャコフの所有楽器だった。

ストラディヴァリ (1723年)「エスパニョル」

ガルネリ・デル・ジェス (1743年)「ソーレ」

エミール・ソーレの所有楽器だった。

カルロ・ベルゴンツィ

アンヘル・レイエス、次いでフリッツ・クライスラーの所有楽器だった。

ジュゼッペ・ガルネリ

のちにミリアム・フリードの演奏楽器となった。



CD-ROM

[No.60] メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 第2番 ホ短調 Op.64
第3楽章

ロンドン交響楽団 (アンドレ・プレヴィン指揮) / 1972年11月27～28
日録音 / HMV ASD 2926 / EMI 5 62591 2 / (6'41)

パールマンの魅力、心のこもった豊麗、千もの持ち味を楽しませてくれる
輝かしい演奏。

[No.61] プロコフィエフ：ヴァイオリンソナタ 第1番 ヘ短調 Op.80
第3楽章

セウラジミール・アシュケナージ (ピアノ) / 1969年7月録音 / RCA
LSC 3118 / 再収録 RCA BMG 09026 2 / (7'38)

イツァーク・パールマンとウラジミール・アシュケナージの共演による初
めての録音。初共演にして見事なコラボレートであり、のちにこの二人の
コラボレートは伝説となる。この軽快な遊びの部分とドラマティックな部
分の難しいバランスこそ、プロコフィエフの音楽の魔法の精髓で、二人は
息のあった演奏で素晴らしい様式美を創り上げている。

Oleg Kagan

(1946-1990)





CD-ROM

[No.62] ショスタコーヴィチ：ヴァイオリンソナタ Op.134 第2楽章

スピャトスラフ・リヒテル(ピアノ) / 1985年ライブ録音 / MK
418014 / (7'00)

スピャトスラフ・リヒテルとの記念碑的なコラボレートを証言する音源の一つ。このソナタは弾き手によっては堅苦しく神経をいらだたせる演奏になりがちだが、二人の指から生まれる音楽は輝きを帯び、ついほろりとさせられてしまう。いかめしさの下から軽やかな奇抜さが吹きだし、雄々しいバイタリティーと決然とした楽観のなか、戦いは希望へと姿を変える。無尽蔵の活力と生気を感じさせる。

Viktor Tretyakov

(1946-)





使用楽器

ストラディヴァリ (1707年)

ニコロ・ガリアーノ (1772年)



CD-ROM

[No.63] チャイコフスキー：懐かしい土地の思い出 Op.42 第1楽章

ソヴィエト連邦国立交響楽団 (マリス・ヤンソンス指揮) / 1981年
10月30日録音 / Revelation RV 10070 / (10'41)

もともとは《ヴァイオリン協奏曲》の緩徐楽章として書かれたこの曲を感動的に歌いあげる解釈で聴かせてくれる。

Gidon Kremer

(1947-)



©Magnum Agency



使用楽器

グアダニーニ

ストラディヴァリ (1734年) 「ex-バロン・フォン・ファイリツチュ」

ガルネリ・テル・ジェス (1730年) 「バイネ」

かつてフェルディナント・ダヴィッドの所有楽器だった。

ニコラ・アマティ (1641年) 「ハンプルク」



著作

『ちいさなヴァイオリンギドン・クレームル自伝』(1993年)

『ロツクンハウス・オアシス』(1996年)

『琴線の触れ合い』(1997年)

『クレームル青春譜 二つの世界のあいだで』(2004年)



CD-ROM

[No.64] イザイ：無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ 第3番 イ短調
Op.27 「バラード」

1976年録音／メロディア C10-10037/8／再収録 MFSL MFCD 021／
(6'12)

圧倒的であると同時に幻視的な録音。過去にリリースされたヴァイオリン録音すべてのなかでも屈指の名演。

[No.65] モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 K219
第3楽章

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 (ニコラウス・アーノンクール指揮)
／1987年1月録音／ドイツ・グラモフォン 423 107-2／再収録 ドイツ・
グラモフォン 457 009-2／(8'55)

のちにクレームルの演奏に決定的な影響を与えることになったという、ニコラウス・アーノンクールとの出会いを証言する録音。

カデンツァはR. レヴィン作。